内科領域

国立病院機構京都医療センター
内科専門研修プログラム



文中に記載されている『研修カリキュラム項目表』、『研修手帳（疾患群項目表）』、『技術・技能評価手帳』などは、日本内科学会のホームページを参照のこと。

国立病院機構京都医療センター内科専門研修プログラム

1. 理念・使命・特性

理念

1) 当プログラムは、京都・乙訓医療圏南部の中心的な急性期病院である国立病院機構京都医療センターを基幹施設として、京都・乙訓医療圏およびその他の医療圏にある連携施設での内科専門研修を経て、国立病院機構の一員として全国的な視点と医科学に対する関心と素養を持ちつつ、京都府および日本の各地域の医療に貢献する責任感と意思を持ち、安心・安全な医療を実現する倫理観、幅広い臨床能力とコミュニケーション能力を有する内科医を養成することを主たる目的とします。また内科全般のみならず救命救急医療に関する基本的な臨床能力を獲得し、医療従事者として必要な柔軟性、知的専門職として必須である生涯にわたる自己研鑽への意欲、医学教育および医学研究、臨床研究に関する関心を涵養することも重要な目標とします。

2) 病院の基本方針に「教育研修病院として医師、看護師等、医療に従事する人材の育成に務めます」と掲げ、初期および後期臨床研修病院として長い歴史と文化を有する京都医療センターの人的・物的資源を、連携病院の特徴のある資源と合わせて利用し、全人的・患者中心かつエビデンスに基づいた標準的・先進的内科的医療の実践を志す内科専門医志望者に、質が高く、かつ量的に過不足のない教育を行うカリキュラムを構築し、必要に応じ修正していきます。研修は、内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたります。

なお、内科領域全般の診療能力とは、臓器別の内科系各サブスペシャルティの専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力です。内科専門研修では、幅広い疾患群の経験によって内科の基礎的診療を繰り返して学ぶことと、疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮する経験に特徴があります。これらの経験を病歴要約として、科学的エビデンスや自己省察を含めて記載し、複数の指導医による指導を受けることによって、患者から学び、全人的・患者中心かつエビデンスに基づいた医療を実践し、生涯にわたり最新の医学知識・技能を追求し、また医学の進歩に貢献するという、医師として必要な姿勢を獲得する一助となります。

使命

1) 限られた医療資源の適正使用を実践しつつ、生涯にわたり日本の医療の中心を担う内科専門医を養成することを使命とし、(1)知的専門職としての責任感と倫理観、(2)エビデンスに基づいた医療、(3)安全・安心、患者中心の医療、(4)リーダーとして円滑かつ効果的なチーム医療の運営、(5)予防医療などについて研修を行います。
2) 本プログラムを修了後の内科専門医が、知的専門職として必須である生涯にわたる自己研鑽への意欲を保持し、医学教育に参画し、また内科系各サブスペシャルティに進んだ後も状況と必要性に応じ内科全般および内科系救急医療の診療に参加する能力と意思を持ち続ける精神を獲得することも重要な使命とします。
3) 地域医療の場において予防医療や在宅医療、教育活動を通じ地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を選択できます。
4) 国立病院機構としての活動および当院臨床研究センターの活動を通じ、医療者として必要な医学研究に関する関心と能力を涵養することも使命とします。

1

特性

当プログラムの基幹施設である京都医療センターは救命救急センター、集中治療室を有し、京都市においてもっとも人口の多い伏見区の中央に位置し、京都・乙訓医療圏の南部および近接する山城北医療圏を中心に、主に 1 次から 3 次までの急性期医療を多数の地域住民に提供しています。また中核病院として地域の医療機関から多数の紹介を受けています。従って当プログラムでは common diseases から rare diseases まで、軽症患者から重篤患者の管理まで、様々な内科症例を経験することができます。発症直後の病態を把握されていない患者の診療は、内科医にとって重要な経験であり、専ら紹介患者に医療を提供する医療機関では得がたいものであると考えます。

更に当プログラムは、全国に展開された国立病院機構の資源を利用し、以下のようなさまざまな研修機会を提供することができます。

1）国立病院機構が主催する良質な医師を育てる研修（内科各領域研修、救急診療、シミュレーション研修など）・チーム医療研修や国立病院機構フェローシップ制度などを通して質の高い後期研修医の育成に努めており、スキルアップのために専攻医も業務として参加できます。

2）国立病院総合医学会が毎年開催され、日常の臨床や研究の成果を発表する機会があります。

3）臨床研修指導医講習会を開催しており、指導医の教育に取り組んでいます。

4）臨床研究センターを併置していて、科学としての医学を学ぶことができ、研究への意識を涵養する研究環境が整っています。

連携施設においては、地域の実情に合わせた実践的な地域密着型の医療を行える研修も用意されています。

標準内科専門研修 3 年コースとサブスペシャルティ並行内科専門研修 4 年コースを選択できます。前者では研修期間は基幹施設 2 年間+連携施設設 1 年間の 3 年間になります。ローテーション中、週 1 回を目処に、志望サブスペシャルティ領域の研修を行うことも可能です。専攻医 2 年修了時で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 45 疾患群、120 症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システムに登録できます。そして、専攻医 2 年修了時点で、指導医による形成的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できます。専攻医 3 年修了時で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 56 疾患群、160 症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システムに登録できます。また「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群、200 症例以上の経験を目標とします。後者では、標準内科専門研修 3 年コースと同様のローテーションをしつつ、1 年目から段階的にサブスペシャルティ研修に当てる時間を増やしていきます。

専門研修後の成果

内科専門医の機能は多岐にわたり、1）地域医療における内科領域を中心とした診療、2）内科系救急医療、3）病院での総合内科・病棟医として機能、4）総合内科的視点を持った subspecialist としての機能があり、当プログラムでは、3）、4）を中心に、2）についても十分な研修を行うことができ、1）についてはそれにふさわしい研修の場を希望者に提供できます。

従って当プログラム終了後は、上記のような場で、チームの一員として、共同かつ自立して内科診療に従事し、必要または医師としての人生の段階に応じて上記の場を柔軟に移行できることが期待

できます。
京都・乙訓医療圏およびその近隣の医療機関にとどまらず、希望によって国立病院機構内の病院もキャリアの選択肢として提供でき、大学との関係も密です。

2. 募集専攻医数

下記より、国立病院機構京都医療センター内科専門研修プログラムで募集する内科専攻医数は 1 学年 5 名とします。
1）京都医療センター内科後期研修医は現在 3 学年併せて 13 名です。
2）剖検体数は 2025 年度 5 体です。
3）膠原病、アレルギー領域の入院患者は少なめですが、外来患者診療を含め、1 学年 5 名に対し十分な症例を経験可能です。
4）13 領域中 12 領域の専門医が少なくとも 1 名在籍しています。
5）1 学年 5 名までの専攻医であれば、専攻医 2 年修了時に「研修手帳(疾患群項目表)」に定められた 45 疾患群、120 症例以上の診療経験と 29 病歴要約の作成は達成可能で、専攻医 3 年修了時に「研修手帳(疾患群項目表)」に定められた少なくとも 56 疾患群、160 症例以上の診療経験は達成可能です。
6）10 連携施設で、1 学年 5 名の内科専攻医のさまざまな希望・将来像に対応可能です。

京都医療センター診療科別診療実績(2025 年度)

診療科	入院患者数	外来患者数
総合内科	6,919	7,246
リウマチ科	1,122	6,820
内分泌代謝内科	1,708	12,742
糖尿病内科	2,878	12,174
腎臓内科	4,400	5,878
血液内科	6,820	4,581
神経内科	9,476	10,600
呼吸器内科	12,160	13,481
消化器内科	15,190	20,381
循環器内科	10,202	11,463
緩和内科	6,887	210
救命救急科	4,861	2,859
計	82,623	108,435

注： 感染症は総合内科を中心に呼吸器内科、消化器内科、神経内科など各科で診療しています。アレルギーは主に総合内科、または救命救急科で診療しています。

3. 専門知識・専門技能とは

1) 専門知識［「内科研修カリキュラム項目表」参照］

専門知識の範囲（分野）は、「総合内科」、「消化器」、「循環器」、「内分泌」、「代謝」、「腎臓」、「呼吸器」、「血液」、「神経」、「アレルギー」、「膠原病および類縁疾患」、「感染症」、ならびに「救急」で構成されます。「内科研修カリキュラム項目表」に記載されている、これらの分野における「解剖と機能」、「病態生理」、「身体診察」、「専門的検査」、「治療」、「疾患」などを目標（到達レベル）とします。

2) 専門技能［「技術・技能評価手帳」参照］

医療面接と身体診察から推定した検査前確率と検査特性を踏まえた検査結果の解釈、ならびに様々な疾病・状況における診断および治療についてエビデンスと患者の選好に基づき決定できる技能が、内科専門医として必須となります。また全人的に患者・家族と関わってゆくこと、他職種とのコミュニケーション、他科専門医へのコンサルテーションも必須の技能です。それらの重要性を自覚した上で、それらを普通に行っている環境で、適宜フィードバックを受けつつ研修することで、これらを習得できると考えます。

4. 専門知識・専門技能の習得計画

1) 到達目標　主治医または主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、200 症例以上経験することを目標とします。内科領域研修を幅広く行うため、内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性があります。そこで、専門研修（専攻医）年限ごとに内科専門医に求められる知識・技能・態度の修練プロセスは以下のように設定します。

○専門研修（専攻医）１年:

- 症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち、少なくとも 20 疾患群、60 症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システムにその研修内容を登録します。以下、全ての専攻医の登録状況については担当指導医の評価と承認が行われます。
- 専門研修修了に必要な病歴要約を 10 症例以上記載して日本内科学会専攻医登録評価システムに登録します。
- 認知領域および精神運動領域（知識および技能）：研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医・上級医とともに行うことができます。
- 情意領域（態度）：専攻医自身の自己評価と指導医・上級医および他職種による評価を行って態度の評価を行い、担当指導医がフィードバックを行います。

○専門研修（専攻医）２年:

- 症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち、通算で少なくとも 45 疾患群、120 症例以上の経験をし、日本内科学会専攻医登録評価システムにその研修内容を登録します。
- 専門研修修了に必要な病歴要約をすべて記載して日本内科学会専攻医登録評価システムへの登録を終了します。
- 認知領域および精神運動領域（知識および技能）：研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医・上級医の監督下で行うことがで

きます。
・情意領域（態度）：専攻医自身の自己評価と指導医・上級医および他職種による評価を複数回行って態度の評価を行います。専門研修（専攻医）1 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。

○専門研修（専攻医）３年:
・症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、200 症例以上経験することを目標とします。修了認定には、主治医または主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上（外来症例は 1 割まで含むことができます）を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システムにその研修内容を登録します。
・専攻医として適切な経験と知識を修得していることを指導医が確認します。
・既に専門研修 2 年次までに登録を終えた病歴要約は、日本内科学会病歴要約評価ボードによる査読を受けます。査読者の評価を受け、形成的により良いものへ改訂します。但し、改訂に値しない内容の場合は、その年度の受理を認められないことに留意してください。
・認知領域および精神運動領域（知識および技能）：内科領域全般について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を自立して行うことができます。
・情意領域（態度）：専攻医自身の自己評価と指導医・上級医および他職種による評価を複数回行って態度の評価を行います。専門研修（専攻医）2 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。また、内科専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナリズム、自己学習能力を修得しているか否かについて指導医が専攻医と面談し、またさらなる改善を図ります。

専門研修修了には、すべての病歴要約 29 症例の受理と、少なくとも 70 疾患群中の 56 疾患群以上で計 160 症例以上の経験を必要とします。日本内科学会専攻医登録評価システムにおける研修ログへの登録と指導医の評価と承認とによって目標を達成します。

京都医療センター内科専門研修プログラムでは、最短期間を 3 年間（基幹施設 2 年間＋連携施設 1 年間）としますが、修得が不十分な場合、修得できるまで研修期間を 1 年単位で延長します。一方でカリキュラムの知識、技術・技能を修得したと認められた専攻医にはサブスペシャルティ領域専門医取得に向けた研修を認めます。

2）臨床現場での学習（on-the-job training）
内科領域の専門知識は、広範な分野を横断的に研修することで各種の疾患を経験しそれを省察することによって獲得されます。内科領域は 70 疾患群に分類され、それぞれに提示されているいずれかの疾患を経験する過程で、専門医に必要な知識、技術・技能を修得します。代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載します。また自らが経験することのできなかった症例については、カンファレンスや自己学習によって知識を補足します。これらを通じて、遭遇することがまれな疾患であっても、類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えることが期待されます。
① 内科専攻医は、担当指導医もしくは上級医の指導の下、主治医または主担当医としての入院症例と外来症例の診療を通じて、内科専門医を目指して常に研鑽します。主治医または主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の

流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。

② 定期的（毎週 1～5 回）に開催する各診療科カンファレンスを通じて、担当症例の病態や診断過程の理解を深め、多面的な見方や最新の情報を得ます。また、プレゼンターとして情報検索およびコミュニケーション能力を高め、またフィードバックを受けます。

③ 初診を含む総合内科外来を数ヶ月と、診療科外来（初診を含む）を少なくても週 1 回、1 年以上担当し経験を積みます。

④ 3 年間を通じ ER 当直を月に 3～4 回担当し、平日夜間および休日の内科領域を含めた救急診療の経験を積みます。

⑤ MET call などに対し、チームの一員として病棟急変対応の経験を積みます。

⑥ 状況に応じて、ローテーション診療科の侵襲的検査や治療を担当します。

3）臨床現場外での学習（off-the-job training）

1）内科領域を中心とした救急対応、2）最新のエビデンスに基づいた診断や治療の検索と実践、病態理解・治療法の理解、3）医療安全・感染対策に関する事項、4）高齢者医療と自己決定権の尊重を含めた医療倫理、臨床研究や利益相反に関する事項、5）専攻医の指導・評価方法に関する事項、などについて、以下の方法で研鑽します。

① 定期的（毎週 1 回程度）に開催する各診療科での抄読会

② 医療倫理、医療安全、感染防御、医療情報の管理に関する講習会

※ 内科専攻医は年に 2 回以上受講

③ CPC（基幹施設 2025 年度実績 5 回）

④ 研修施設群合同カンファレンス（2026 年度：年 2 回開催予定）

⑤ 地域参加型のカンファレンス（基幹施設：南京都地域救急医療合同カンファレンス、伏見医師集談会、伏見医師会各種研究会）

⑥ JMECC

※ 内科専攻医は必ず専門研修 1 年もしくは 2 年までに 1 回受講します。

⑦ 内科系学術集会

⑧ 各種指導医講習会/JMECC 指導者講習会

など

4）自己学習

「研修カリキュラム項目表」では、知識に関する到達レベルを A（病態の理解と合わせて十分に深く知っている）と B（概念を理解し、意味を説明できる）に分類、技術・技能に関する到達レベルを A（複数回の経験を経て、安全に実施できる、または判定できる）、B（経験は少数例ですが、指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる、または判定できる）、C（経験はないが、自己学習で内容と判断根拠を理解できる）に分類、さらに、症例に関する到達レベルを A（主担当医として自ら経験した）、B（間接的に経験している（実症例をチームとして経験した、または症例検討会を通して経験した）、C（レクチャー、セミナー、学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習した）と分類しています。

自身の経験がなくても自己学習すべき項目については、以下の方法で学習します。

① 内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信

② 日本内科学会雑誌にある MCQ
③ 日本内科学会が実施しているセルフトレーニング問題など

5）研修実績および評価を記録し、蓄積するシステム
日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて、以下を web ベースで日時を含めて記録します。
・専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に、通算で最低 56 疾患群以上 160 症例の研修内容を登録します。指導医はその内容を評価し、合格基準に達したと判断した場合に承認を行います。
・専攻医による逆評価を入力して記録します。
・全 29 症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し、専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボードによるレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂を受理されるまでシステム上で行います。
・専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステムに登録します。
・専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC、地域連携カンファレンス、医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します。

5. プログラム全体と各施設におけるカンファレンスなど

プログラム全体と各施設のカンファレンス、また関連する国立病院機構や京都府医師会の講習会やカンファレンスについて、京都医療センター臨床研修センターが把握し、定期的に E-mail などで専攻医に周知します。

6. 科学的思考の涵養と生涯教育、医学教育とリーダーシップ

臨床医にとって、各患者の個々の状況と想いに共感し配慮しつつ、科学的な思考と人間的な判断に基づき、個々の患者にとって最前の医学的管理を真摯に行うことが必要です。そしてそれを医師としての生涯にわたり実行するために、自己研鑽を生涯にわたって行い、自らを深めてゆくことが必要になります。このために、患者から学ぶという姿勢を基本とし、
① 科学的なエビデンスに基づいた診断、治療を行う
② 最新の知識、技能を常にアップデートする
③ 診断や治療の科学的エビデンスの構築や病態の理解につながる研究のデザインを理解する
④ 症例報告を通じて深い疾患理解と、医学界の知識集積に寄与する
といった科学的姿勢の基本を涵養します。

To teach is to learn

併せて、
① 初期臨床研修医や医学生の指導を行う
② 後輩専攻医の指導を行う
③ 他職種を尊重しつつ、リーダーとして協同しながら診療を行う
を通じて、内科専攻医としての教育的活動を行います。

7. 学術活動に関する研修計画

① 内科系の学術集会や企画に年 2 回以上参加します（必須）。

※日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会、CPC および内科系各学会の学術講演会・講習会を推奨します。

② 経験症例についての文献検索を行い、症例報告を行います。

③ 臨床的疑問を抽出して、既存のエビデンスがない場合、それを解決するための臨床研究のデザインを学習し、可能であればそのような臨床研究に参画します。

④ 内科学に通じる基礎研究を行います。

内科専攻医は学会発表あるいは論文発表を筆頭者として２件以上行います。

8. 倫理性、社会性の研修計画

内科専門医として高い倫理観と社会性を獲得できる研修をします。

① 患者とのコミュニケーション能力
② 患者中心の医療の実践
③ 患者から学ぶ姿勢
④ 自己省察の姿勢
⑤ 医の倫理への配慮
⑥ 医療安全の実践
⑦ 公益に資する医師としての責務に対する自律性
⑧ 地域の医療保健活動への参画
⑨ 他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力
⑩ 後輩医師、医学生への指導

9. 地域医療に関する研修

医療の中核を担う内科の研修では、多様な段階、多様な重症度の、多様な疾患を経験できることが必要です。国立病院機構京都医療センター内科専門研修プログラムは京都・乙訓医療圏および近隣の医療圏の様々な医療機関から構成され、単一の医療施設での研修では経験することのできない研修を行うことができます。

地域密着型の金井病院では、地域での総合診療・総合内科と、併設する在宅療養支援診療所による在宅医療を経験できます。

国立病院機構宇多野病院は、京都市北西部の中規模の公的病院であり、神経および免疫疾患の基幹病院であるとともに、在宅療養あんしん病院登録システムなどを通じ地域医療に貢献しています。

枚方公済病院は中規模病院として ER などを通じ地域に密着した医療を提供しています。

丹後中央病院は”田舎の地域に根付いた病院”であり、近隣の医院、老健施設、訪問看護ステーション、訪問診療医との連携しつつ診療しています。

三菱京都病院は企業立病院で、年間入院患者数 3214 名、平均在院日数は 7.5 日（緩和ケアを除く）と、質および効率の高い医療を近隣の地域に提供しています。

国立循環器病研究センター病院では、循環器疾患を専門的に学ぶことができます。

京都桂病院、京都市立病院、大津赤十字病院、天理よろづ相談所病院、日本赤十字社和歌山医療センター、神戸市立医療センター中央市民病院、静岡市立静岡病院は地域の中核となる大規模病院として機能しながら、各々の地域の医療機関とそれぞれの病・病連携、病・診連携を構築していて、それらを経験することができます。そのほか、特定機能病院である京都大学附属病院も連携病院としています。

このような施設での、主たる担当医としての診療従事などを通じ、高次病院や地域病院との病・病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病・診連携を経験します。

9

10. 京都医療センター内科専攻医研修の概観

2） 専門研修の期間と施設

A. 標準内科専門研修 3 年コース



京都医療センター標準内科専門研修 3 年コースの年次別スケジュールの目安

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	#1	C	C	C	A	A	A	連携	連携	連携	連携	連携	連携
	#2	D	D	D			E	E	B	B	B	連携	連携
	#3	E	E	E	C	C	F	F	A	A	A	B	B
	#4	F	F	F			C	C	B	B	B	A	A
	#5	A	A	A	B	B	B	F	F	C	C	連携	連携
	#6	A	A	A	連携	連携	連携	連携	連携	連携	C	C	F
2年目	#1	連携	連携	連携	連携	連携	連携	D	D	E	E		
	#2	連携	連携	連携	連携	連携	連携	連携	連携	連携	連携	F	F
	#3	B	連携	連携	連携	連携	連携	連携	連携	連携	連携	連携	連携
	#4	A	D	D	E	E	連携	連携	連携	連携	連携	連携	連携
	#5	連携	連携	連携	連携	D	D	E	E				S+B
	#6	F	B	B	B	E	E	D	D				連携
3年目	#1	F	F	B	B	B	S+B	S+B	S+B	S+B	S+B	S+B	S+B
	#2	C	C	A	A	A	S+B	S+B	S+B	S+B	S+B	S+B	S+B
	#3	連携	D	D			S+B	S+B	S+B	S+B	S+B	S+B	S+B
	#4	連携	連携	連携	連携	連携	S+B	S+B	S+B	S+B	S+B	S+B	S+B
	#5	S+B	S+B	S+B	連携	連携	連携	連携	連携	連携	S+B	S+B	S+B
	#6	連携	連携	連携	連携	連携	S+B	S+B	S+B	S+B	S+B	S+B	S+B

A: 総合・血液・リウマチ　D: 消化器＋腫瘍　Q: 救命救急、選択　空欄: 選択

B: 糖・内分泌・腎　E: 呼吸器＋腫瘍　S: subspecialty

C: 循環器　F: 神経　S+B: subspecialty + 内科バスケット

上記は大枠であり、専攻医の希望および状況に応じ適宜変更します。S+B(内科バスケット)は、主にサブスペシャルティの研修を行いながら、経験できていない疾患群の症例を少数、領域にかかわらず担当する期間とします。サブスペシャルティを決めていない、または総合内科志望者は、#5、#6 のスロットに入ることになります。空欄を選択期間としますが、救命救急科ローテーションを希

望する場合、適宜調節します。連携施設での研修中にローテーションした診療科は、内科専攻医の希望により、京都医療センターでのその診療科のローテーションを短縮または省略できます。

京都医療センター内科専門研修週間スケジュール（概略の例）

		月	火	水	木	金
総・リウ・血	朝	ERカンファ	ERカンファ/血内カンファ	ERカンファ/朝カンファ	ERカンファ/朝カンファ	ERカンファ/血内カンファ
	午前		総内・リウ内回診		総内・リウ内回診	
	昼					臨床研修医ランチタイムセミナー
	午後	総内・リウ内カンファ	総内・リウ内カンファ	総内・リウ内カンファ/抗生物質適正使用小委員会（月1）	総内・リウ内カンファ	総内・リウ内カンファ
	夕方以降			リウ内抄読会		
	週1～2回午後総合内科時間外患者担当					
糖・内分泌・腎	朝	腎内週末申し送り				
	午前			糖内回診/副腎静脈サンプリング	腎生検	
	昼					
	午後	腎内カンファ	腎シャント回診/甲状腺エコー	内分泌カンファ/透析サポートチーム回診	腎病理・透析カンファ/甲状腺エコー	腎内勉強会/甲状腺エコー
	夕方以降	糖内ミニカンファ	3科合同セミナー		糖内新患カンファ	
循環器	朝	カンファ	カンファ	カンファ	カンファ	カンファ
	午前	トレッドミル検査	負荷心筋シンチ検査	救急当番	心エコー	
	昼					文献抄読会（月1）
	午後			救急当番		病棟回診
	夕方以降	心不全/不整脈カンファ		症例検討会/スタッフレクチャー	内科・外科合同カンファ	カテーテルカンファ

B. サブスペシャルティ並行内科専門研修 4 年コース



サブスペシャルティ並行内科専門研修では、早期からサブスペシャルティ研修を開始しながら、余裕を持って 4 年間内科専門研修を行うことになります。1 年次は週 1～2 日の半日サブスペシャルティでの手技や外来を担当し、2 年次は週の 2～3 日の半日、3 年次以降は週の 3～4 日の半日～全日をサブスペシャルティの業務に従事することを目処とします。

11

連携病院での研修は、内科専攻医及び診療科の話し合いにより、2 年次～4 年次前半に行うこととします。

11. 専攻医の評価方法と時期

（1）京都医療センター臨床研修センターの役割

・京都医療センター内科専門研修管理委員会の事務局を行います。
・京都医療センター内科専門研修プログラム開始時に、各専攻医が初期研修期間などで経験した疾患について日本内科学会専攻医登録評価システムの研修手帳 Web 版を基にカテゴリー別の充足状況を確認します。
・3~4 か月ごとに研修手帳 Web 版にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医による研修手帳 Web 版への記入を促します。また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は担当指導医とともに該当疾患の診療経験を促します。
・3~4 か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を担当指導医とともに促します。また、各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を担当指導医とともに促します。
・6 か月ごと、および必要時にプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。
・自己評価：年に複数回の専攻医の自己評価は日本内科学会専攻医登録評価システムを通じて記録される予定で、それを形成的にフィードバックします。
・指導医・上級医および他職種による評価：内科専攻医は、臨床研修センターにより、毎年 1 回以上、指導医・上級医および他職種による評価されます。評価者は、担当指導医・上級医、看護師に加え、臨床検査技師/放射線技師/臨床工学技士/理学・作業・言語療法士、事務職員から選ばれます。患者中心の医療を心がけているかに重点を置きつつ、医師としての適性、チーム医療の一員としての他職種とのコミュニケーション能力、社会人としての基本的な適性などについて、態度面を主に評価します。連携病院での専門研修の評価は、臨床研修センターが各研修施設の研修委員会に委託して複数の他職種による評価を依頼します。いずれも日本内科学会専攻医登録評価システムにされる予定で、それをセンターが形成的にフィードバックします。
・日本専門医機構内科領域研修委員会による施設実地調査に対応します。

（2）専攻医と担当指導医の役割

・専攻医 1 人に 1 人の担当指導医が京都医療センター内科専門研修プログラム委員会により決定されます。
・専攻医は web にて日本内科学会専攻医登録評価システムにその研修内容を登録し、担当指導医はその履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。
・専攻医は、1 年目専門研修終了時に研修カリキュラムに定める 70 疾患群のうち 20 疾患群、60 症例以上の経験と登録を行うようにします。2 年目専門研修終了時に 70 疾患群のうち 45 疾患群、120 症例以上の経験と登録を行うようにします。3 年目専門研修終了時には 70 疾患群のうち 56 疾患群、160 症例以上の経験の登録を修了します。それぞれの年次で登録された内容は、臨床研修センターと担当指導医が評価・承認します。
・ともに診療する各内科指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、かつ担当指導医は研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録の評価や臨床研修センターからの報告などにより

12

研修の進捗状況を把握し、専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主治医・主担当医の割り振りを調整します。

・担当指導医は関連する各内科指導医と協議し、知識、技能の評価を行います。

・内科専攻医は、専門研修（専攻医）2 年修了時までに 29 症例の病歴要約を順次作成し、日本内科学会専攻医登録評価システムに登録します。担当指導医は専攻医が合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し、担当指導医を含めた各指導医が内科専門医ボードによる査読・評価で受理されるよう病歴要約を査読し、助言・指導を行います。専攻医は、内科専門医ボードのピアレビュー方式の査読・形成的評価に基づき、専門研修（専攻医）3 年次修了までにすべての病歴要約が受理されるように修正します。これによって病歴記載能力を形成的に深化させます。

（3）評価の責任者年度ごとに担当指導医が評価を行い、基幹施設あるいは連携施設の内科研修委員会で検討します。その結果を年度ごとに京都医療センター内科専門研修管理委員会で検討し、統括責任者が承認します。

（4）修了判定基準

1）担当指導医は、日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて研修内容を評価し、以下ⅰ)～ⅵ)の修了を確認します。

ⅰ）主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、計 200 症例以上（外来症例は 20 症例まで含むことができます）を経験することを目標とします。その研修内容を日本内科学会専攻医登録評価システムに登録します。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができます）を経験し、登録済みであること

＊臨床研修で主担当医として経験した症例を専門研修での経験として含む際には、日本内科学会の整備基準などに基づくものとしますが、最大 80 症例までとし、内科専門研修管理委員会またはその委嘱をうけた担当指導医が口頭試問をふくめた評価をし、登録の妥当性を確認します。

ⅱ）29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後受理されていること

＊臨床研修で主担当医として経験した症例を病歴要約として含む際には、日本内科学会の整備基準などに基づくものとしますが、最大 14 症例までとし、内科専門研修管理委員会またはその委嘱をうけた担当指導医が口頭試問をふくめた評価をし、病歴要約として使用することの妥当性を確認します。

ⅲ）所定の 2 編の学会発表または論文発表をしていること

ⅳ）JMECC を受講していること

ⅴ）プログラムで定める講習会受講

ⅵ）日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて複数の他職種を含めた評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し、社会人でありかつ専門職である医師としての適性が確認されていること

2）京都医療センター内科専門医研修プログラム管理委員会は、当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認し、研修期間修了約 1 か月前に京都医療センター内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います。

（5）プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

「専攻医研修実績記録フォーマット」、「指導医による指導とフィードバックの記録」および「指導者研修計画（FD）の実施記録」は、日本内科学会専攻医登録評価システムを用います。なお、「京都医療センター内科専攻医研修マニュアル」と京都医療センター内科専門研修指導者マニュアル」を別に示します。

12. 専門研修管理委員会の運営計画

1）国立病院機構京都医療センター内科専門研修プログラムの管理運営体制の基準

i）内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。内科専門研修プログラム管理委員会は、統括責任者（内科系診療部長）、副統括責任者（診療部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）、事務局代表者、内科各分野の研修指導責任者（診療科科長）および連携施設担当委員で構成されます。また、オブザーバーとして専攻医を委員会会議の一部に参加させます。内科専門研修管理委員会の事務局を、臨床研修センターにおきます。

ii）京都医療センター内科専門研修施設群は、基幹施設、連携施設ともに内科専門研修委員会を設置します。委員長 1 名（指導医）は、基幹施設との連携し、また年 2 回開催予定の京都医療センター内科専門研修管理委員会に出席します。

2) 京都医療センター内科専門研修管理委員会への報告

基幹施設、連携施設ともに、毎年 4 月 30 日までに以下のデータを提示します。

① 前年度の診療実績

a) 病院病床数、b) 内科病床数、c) 内科診療科数、d) 1 か月あたり内科外来患者数、e) 1 か月あたり内科入院患者数、f) 剖検数

② 専門研修指導医数および専攻医数

a) 前年度の専攻医の指導実績、b) 今年度の指導医数/総合内科専門医数、c) 今年度の専攻医数、d) 次年度の専攻医受け入れ可能人数。

③ 前年度の学術活動

a) 学会発表、b) 論文発表

④ 施設状況

a) 施設区分、b) 指導可能領域、c) 内科カンファレンス、d) 他科との合同カンファレンス、e)医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会、j) JMECC の開催。

⑤ 内科系各領域の専門医数

日本消化器病学会消化器専門医数、日本循環器学会循環器専門医数、日本内分泌学会専門医数、日本糖尿病学会専門医数、日本腎臓病学会専門医数、日本呼吸器学会呼吸器専門医数、日本血液学会血液専門医数、日本神経学会神経内科専門医数、日本アレルギー学会専門医（内科）数、日本リウマチ学会専門医数、日本感染症学会専門医数、日本救急医学会救急科専門医数

13. プログラムとしての指導者研修の計画

指導法の標準化のため日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」を活用します。

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。指導者研修の実施記録として、日本内科学会専攻医登録評価システムを用います。

14.　専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

労働基準法や医療法を順守することを原則とします。
内科専攻医は研修中の施設の就業環境に基づき、就業します。

基幹施設の整備状況：

・臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
・国立病院機構非常勤医師として労務環境が保障されています。
・管理課厚生係がメンタルストレスに対処し、管理課長がハラスメントの窓口となります。
・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
・なお、病院敷地内は全面禁煙です。

専門研修施設群の各研修施設の状況については、「京都医療センター内科専門研修プログラム研修施設群」を参照してください。

15. 内科専門研修プログラムの改善方法

1）専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて無記名式逆評価を行います。逆評価は年に一回以上行います（任意）。また、年に複数の研修施設に在籍して研修を行う場合には、研修施設ごとに逆評価を行います。その集計結果は担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧します。また集計結果に基づき、研修プログラムや研修環境の改善に役立てます。

2）専攻医等からの研修に関連する問題点の指摘をシステム改善につなげるプロセス

専門研修施設の内科専門研修委員会、内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて、専攻医の逆評価、専攻医の研修状況を把握します。把握した事項について、内科専門研修プログラム管理委員会は真摯に対応を検討します。

なお、研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難である場合は、専攻医や指導医から日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。
日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて専攻医の研修状況を定期的にモニタし、内科専門研修プログラムが円滑に進められているか否かを追跡し、必要に応じプログラム修正を計ります。

状況によって、日本専門医機構内科領域研修委員会の支援、指導を受け入れ、改善に役立てます。

3）研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応

国立病院機構京都医療センター臨床研修センターは、当内科専門研修プログラムに対する日本専門医機構内科領域研修委員会からのサイトビジットを受け入れ対応します。その評価を基に、必要に応じて当内科専門研修プログラムの改良を行います。

16. 専攻医の募集および採用の方法

日本専門医機構および日本内科学会のスケジュールに則り、募集、採用を行います。現時点では、ホームページ、説明会その他でスケジュールの公表などを行い、内科専攻医を募集する予定です。

京都医療センター臨床研修センター

E-mail ：404-senmoni@mail.hosp.go.jp

HP: http://kyoto.hosp.go.jp/ の「臨床研修医・専攻医」からお入りください）

17. 内科専門研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件

やむを得ない事情により他の内科専門研修プログラムの移動が必要になった場合には、適切に日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて京都医療センター内科専門研修プログラムでの研修内容を遅滞なく登録し、担当指導医が認証します。これに基づき、京都医療センター内科専門研修プログラム管理委員会と移動後のプログラム管理委員会が、その継続的研修を相互に認証することにより、専攻医の継続的な研修を認めます。他の内科専門研修プログラムから京都医療センター内科専門研修プログラムへの移動の場合も同様です。

他の領域の専門研修プログラムから京都医療センター内科専門研修プログラムに移行する場合、他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修をはじめる場合、あるいは初期臨床研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている場合には、当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し、担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め、さらに京都医療センター内科専門研修プログラム統括責任者が認めた場合に限り、日本内科学会専攻医登録評価システムへの登録を認めます。症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会の決定によります。

疾病あるいは妊娠・出産、産前後、海外への留学、介護、災害被災に伴う研修期間の休止については、プログラム終了要件を満たしており、かつ休職期間が 6 ヶ月以内であれば、研修期間を延長する必要はないものとします。これを超える期間の休止の場合は、研修期間の延長が必要です。短時間の非常勤勤務期間などがある場合、按分計算（1 日 8 時間、週 5 日を基本単位とします）を行なうことによって、研修実績に加算します。留学期間は、原則として研修期間として認めません。

18. 国立病院機構京都医療センター内科専門研修施設群

基幹施設： 国立病院機構京都医療センター

連携施設： 淀さんせん会金井病院
桃仁会病院
国立病院機構宇多野病院
枚方公済病院
丹後中央病院
三菱京都病院
京都桂病院
京都市立病院
大津赤十字病院
国立循環器病研究センター病院
天理よろづ相談所病院

日本赤十字社和歌山医療センター
神戸市立医療センター中央市民病院
京都大学医学部附属病院
静岡市立静岡病院
静岡県立総合病院
彦根市立病院
市立長浜病院
滋賀県立総合病院
平戸市民病院
京丹後市弥栄病院
京都府立医科大学附属北部医療センター
公立豊岡病院
高島市民病院
洛陽病院(特別連携施設)
若狭高浜病院（特別連携施設
隠岐広域連合隠岐病院（特別連携施設）
高槻赤十字病院
大阪赤十字病院
公益財団法人田附興風会　医学研究所北野病院
社会福祉法人恩賜財団済生会支部　大阪府済生会中津病院
神戸市立医療センター西市民病院
神鋼記念病院
神戸市立西神戸医療センター
独立行政法人国立病院機構姫路医療センター
公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構　倉敷中央病院
高松赤十字病院

専門研修施設群の構成

京都医療センターは京都・乙訓医療圏南部の中心的な急性期病院で、そこでは地域における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験を研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の能力を身につけます。

連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目標に、金井病院、桃仁会病院、宇多野病院、枚方公済病院、丹後中央病院、三菱京都病院、京都桂病院、京都市立病院、大津赤十字病院、国立循環器病研究センター病院、天理よろづ相談所病院、日本赤十字社和歌山医療センター、神戸市立医療センター中央市民病院、静岡市立静岡病院、京都大学医学部附属病院、静岡県立総合病院、彦根市立病院、市立長浜病院、滋賀県立総合病院、平戸市民病院、京丹後市弥栄病院、京都府立医科大学附属北部医療センター、公立豊岡病院、洛陽病院(特別連携施設)、若狭高浜病院（特別連携施設）、隠岐広域連合隠岐病院（特別連携施設)で構成しています。

基幹施設である京都医療センターは救命救急センター、集中治療室を有し、京都市においてもっ

とも人口の多い伏見区の中央に位置し、京都・乙訓医療圏の南部および近接する山城北医療圏を中心に、主に 1 次から３次までの急性期医療を多数の地域住民に提供しています。また中核病院として地域の医療機関から多数の紹介を受けていて、common diseases から rare diseases まで、軽症患者から重篤患者の管理まで、様々な内科症例を経験することができます。

地域密着型の金井病院では、地域での総合診療・総合内科と、併設する在宅療養支援診療所による在宅医療を経験できます。

桃仁会病院では、バスキュラー・アクセス（VA）センターにおいては、VA 治療をオーダーメイド化し、一人一人に対して最適の治療を目指し、CKD 予防についても取り組んでいます。

国立病院機構の脳・神経筋疾患基幹医療施設である宇多野病院は、京都市北西部の中規模の公的病院であり、神経および免疫疾患の基幹病院であるとともに、在宅療養あんしん病院登録システムなどを通じ地域医療に貢献しています。

枚方公済病院は中規模病院として ER などを通じ地域に密着した医療を提供しながら、領域によって地域の中核病院として機能しています。

丹後中央病院は”田舎の地域に根付いた病院”であり、近隣の医院、老健施設、訪問看護ステーション、訪問診療医との連携しつつ診療しています。消化器、呼吸器、アレルギーの専門的な診療に加え、幅広い内科領域の経験ができます。

三菱京都病院は企業立病院で、年間入院患者数 3214 名、平均在院日数は 7.5 日（緩和ケアを除く）と、質および効率の高い医療を提供していて、全人的な内科医の養成を目標としています。

地域の中核的な大規模病院である京都桂病院、京都市立病院、大津赤十字病院は、京都医療センターと同様の機能を各々の地域で果たしながら、少しずつ特徴と得意分野が異なり、補完し合いながら質の高い内科研修を提供できます。

国立循環器病研究センター病院では、脳・心臓病の最先端治療からその基盤となる生活習慣病や代謝異常の管理まで、循環器疾患をオールラウンドに、かつ専門的に学ぶことができます。他の施設では経験できないような診断困難例や高度先進医療適応例も経験できます。

このような施設での、主たる担当医としての診療従事などを通じ、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。

静岡市立静岡病院は，静岡県静岡医療圏の中心的な急性期病院であり，静岡医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。

各内科専門研修施設での研修の可能性

	総合内科	腫瘍内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病など	感染症	救急	在宅医療
京都医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	△	○	
淀さんせん会金井病院	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	○	○	○

桃仁会病院							○								
国立病院機構宇多野病院	○		×	△	△	△	△	△	△	○	△	○	○	△	
枚方公済病院	○		△	○	△	△		○	△				△	○	
丹後中央病院	○		○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	○	
三菱京都病院	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	
京都桂病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	△	○	
京都市立病院															
大津赤十字病院	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
循環器病研究センター				○	△	○	○			○					
天理よろづ相談所病院	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
日本赤十字社 和歌山医療センター	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
神戸市立医療センター 中央市民病院	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
京都大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
静岡市立静岡病院	○		○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	
静岡県立総合病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
彦根市立病院	○		○	○	○	○	△	○	○	○	×	△	○	○	
市立長浜病院	○		○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	×	○	
滋賀県立総合病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
平戸市民病院	○														○
京丹後市弥栄病院	○														○
京都府立医科大学附属 北部医療センター	○		○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○
公立豊岡病院	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
高島市民病院															
洛陽病院（特別連携）	○														
若狭高浜病院（特別連携）	○		○											○	
隠岐広域連合隠岐病院 （特別連携）	○														○
高槻赤十字病院	○		○	○	△	△	△	○	○	○	○	△	○	○	
大阪赤十字病院	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
医学研究所北野病院	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
大阪府済生会中津病院	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
神戸市立医療センター 西市民病院	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

19

神鋼記念病院	○		○	○	△	○	△	○	○	○	△	○	△	○	
神戸市立西神戸医療センター	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
姫路医療センター	○		○	○	○	○	×	○	○	×	○	○	○	○	
倉敷中央病院	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
高松赤十字病院	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

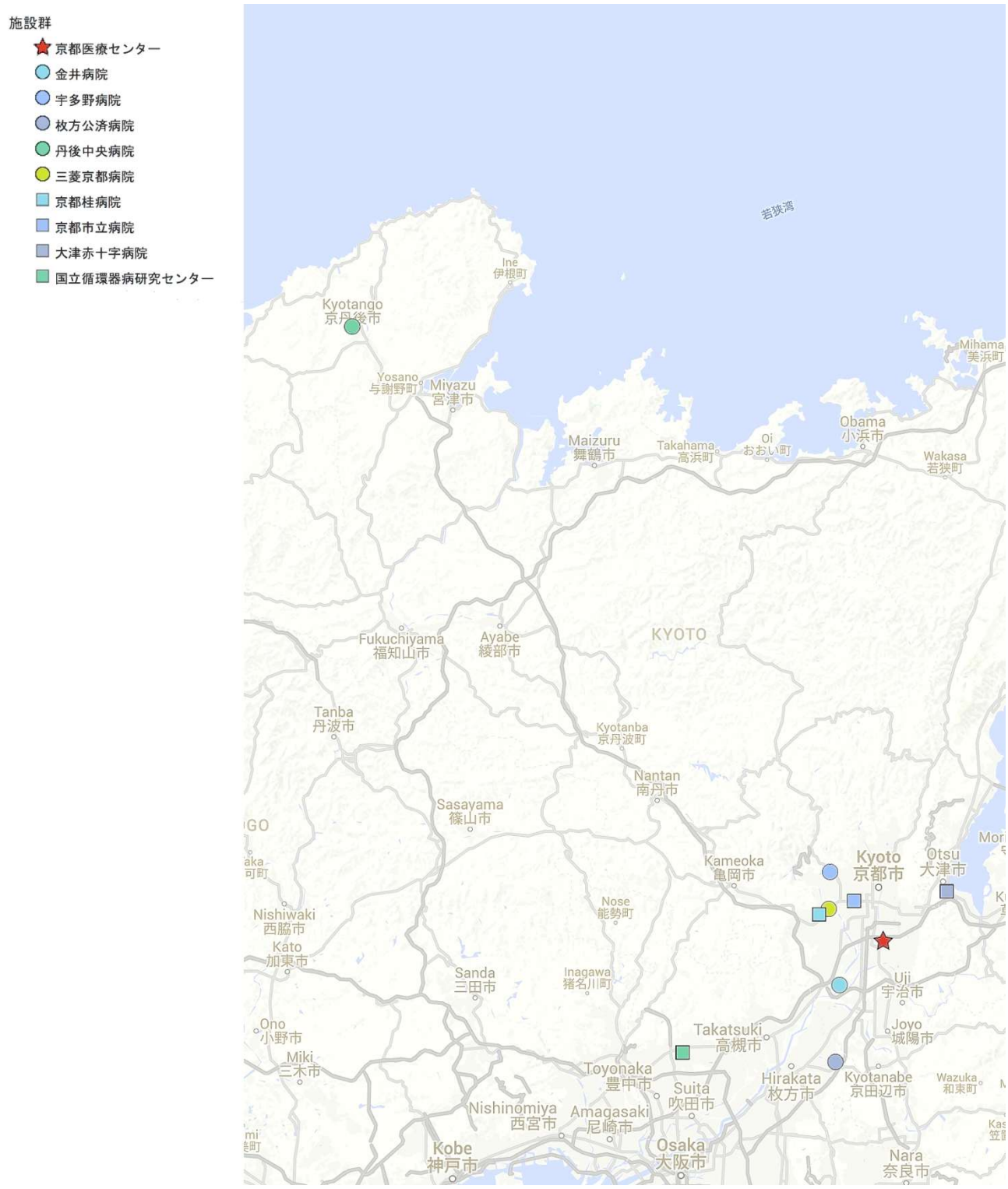
○経験できる疾患群、△は時に経験できる、空欄は経験できないことが多い

専門研修施設（連携施設）の選択

・専攻医の希望・将来像、症例の経験の進行状況に応じ、研修施設を調整し決定します。

20

専門研修施設群の地理的範囲



21

1)専門研修基幹施設

国立病院機構京都医療センター

1）専攻医の環境 【整備基準 24】	·臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·国立病院機構期間医師として労務環境が保障されています。 ·管理課厚生係がメンタルストレスに対処し、管理課長がハラスメントの窓口となります。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ·敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
2）専門研修プログラムの環境 【整備基準 24】	·指導医は 26 名在籍しています。 ·当院の研修委員会委員長が基幹施設の研修管理委員会の委員として連携を図ります。 ·臨床研修センターを設置します。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績合計 6 回）していて、専攻医は受講することが必要です。 ·CPC を定期的に開催（2025 年度実績 5 回）しています。 ·伏見医師会と共同し地域参加型のカンファレンスを行っています。 ·日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
3）診療経験の環境 【整備基準 24】	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 10 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ·70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 65 以上の疾患群）について研修できます。 ·専門研修に必要な剖検（2025 年度内科系 5 体）を行っています。
4）学術活動の環境 【整備基準 24】	·臨床研究センターを併置し、また臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ·倫理委員会を設置し、定期的に開催（2025 年度実績 12 回）しています。 ·治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2025 年度実績 11 回）しています。 ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	立木　美香 【内科専攻医へのメッセージ】 京都・乙訓医療圏南部の中心的な急性期病院である国立病院機構京都医療センターは、地域の医療施設と連携しつつ質の高い医療を提供しています。同時に、古くからの初期および後期臨床研修病院として、医師のみならず多くの医療職の教育研修の経験を有しています。質の高い教育と指導、学会参加や研究活動の支援、働きやすい環境づくりに努めています。そのような環境の中で、全人的かつ標準的・先進的医療の実践を志す内科専門医志望者を丁寧に育てていきたいと考えています。
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 26 名、日本内科学会総合内科専門医 42 名、内分泌代謝科専門医 8 名、日本消化器病学会消化器専門医 8 名、日本循環器学会循環器専門医 10 名、日本糖尿病学会専門医 5 名、日本腎臓病学会専門医 8 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、日本血液学会血液専門医 4 名、日本神経学会神経内科専門医 5 名、日本リウマチ学会専門医 2 名、日本感染症学会専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 7 名、ほか

外来・入院 患者数	外来：　245,354 人 入院：　161,050 人
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携・離島研修（隠岐の島病院・平戸市民病院）なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院、日本内分泌学会研修施設、日本甲状腺学会認定施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本肥満学会認定専門病院、FH 診療認定施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学認定施設、日本急性血液浄化学会認定指定施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本神経学会研修施設、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡認定施設、日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本肝臓学会認定施設、日本循環器学会認定循環器研修施設、日本心血管インターベンション治療学会認定教育施設、日本不整脈学会認定不整脈専門医研修施設など

2)専門研修連携施設

淀さんせん会金井病院

1)専攻医の環境	・研修に必要なインターネット環境があります。 ・医療法人社団淀さんせん会金井病院の医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（職員課）があります。 ・基幹施設である京都医療センターと同一行政区（京都市伏見区）に位置し、同一地区医師会（伏見医師会）に所属していることから、病病連携や学術交流等で日常的に連携しています。 ・ハラスメントに適切に対応する仕組みが整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるような休憩室や更衣室が整備されています。 ・近隣の保育施設と密に連携しており、利用可能です。
2)専門研修プログラムの環境	・研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理する予定です。基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携します。 ・院内で医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催しています。専攻医の研修期間中に、当該講習会が自施設で開催されない場合には、基幹施設が企画する講習会について、専攻医に受講を義務付けます。 ・研修施設群合同カンファレンスに定期的に参画します。 ・基幹施設もしくは日本内科学会が企画する CPC について、専攻医に受講を義務付けます。 ・地域参加型のカンファレンスに定期的に企画しています。
3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、特に総合内科（一般）、総合内科（高齢者）については、定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	金井　伸行 【内科専攻医へのメッセージ】 ・都市部近郊に位置する地域中小病院の総合診療科で、住民との距離の近い総合診療（総合内科外来、1・2 次救急、臓器別でない内科病棟の入院診療、在宅医療）を経験できます。常勤医師約 10 名の 8 割が総合診療科に所属し、病院総合医と家庭医のハイブリッドチームで院内業務のほとんどを担っています。総合内科専門医、救急科専門医のほか、家庭医療専門医も在籍しており、関西家庭医療学センターの研修施設として家庭医の育成にも取り組んでいます。在宅部門では月 120 件以上の訪問診療を行っています。併設の訪問看護ステーションやデイサービスセンターと連携して緩和ケアを含む在宅医療を積極的に行っており、多職種連携や地域包括ケアを実地で学ぶことができます。また、予防医学分野として健診や産業医活動に力を入れているほか、地域ヘルスプロモーション活動（ウォーキングイベント、住民向け講演会の開催、メタボ・ロコモ予防を目的とするフィットネスクラブの運営等）を活発に行っており、これらに参画して経験を積むことも可能です。 ・当院では理事長自らが総合診療医・救急医であるという特性を活かし、総合診療科を軸にした新しいかたちの地域医療に挑戦しています。患者の生活に根ざした、急性期から慢性期まで切れ目のない地域医療を経験したい方の研修を歓迎します。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会総合内科専門医 1 名、日本消化器病学会消化器病専門医 1 名、日本プライマリ・ケア連合学会指導医 2 名、日本プライマリ・ケア連合学会家庭医療専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 6321 名（1 ヶ月平均）　入院患者 125 名（1 日平均）

病床	一般病床 114 床（うち急性期 48 床、障害者病床 58 床、地域包括ケア病床 8 床）、医療･介護療養病床 44 床〉
経験できる疾患群	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	外来、救急医療、病棟診療のみならず、在宅訪問診療や予防医療も含めた地域医療を実践できます。また、地元開業医との病診連携や、京都医療センターや京都大学医学部附属病院、京都府立医科大学附属病院との病病連携の事例を豊富に経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本在宅医学会認定在宅専門医研修施設、日本プライマリ･ケア連合学会家庭医療専門医研修施設

特定医療法人桃仁会病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･研修に必要な医局とインターネット環境があります。 ･桃仁会病院非常勤医師として労務環境が保障されています。 ･事務課がメンタルストレスに対処し、事務長がハラスメントの窓口となります。 ･敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医は６名在籍しています（下記）。 透析指導医６名（そのうち３名は泌尿器科指導医、１名は腎臓指導医） ･医療安全・感染対策・災害対策委員会を毎月１回開催していて、専攻医は出席することができます。 ･伏見医師会に所属しカンファレンス等に参加しています。 ･週１回の医師による合同カンファレンスを実施しています。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	約 360 名の透析患者の管理（腹膜透析を含む）を行っており、エコーを用いたブラッドアクセス管理や穿刺方法、バスキュラーアクセス作製（人工血管を含む）、修復方法の習得が可能です。また、維持透析患者の末梢動脈疾患・循環器管理には力を入れており日々の管理から治療に関する研修が可能と考えております。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	･倫理委員会を設置し、必要時に委員会を開催しています。 ･治験管理室を設置し、必要時に委員会を開催しています。 ･学術集会での発表・参加に制限を課さず、原則費用も法人が負担をします。
指導責任者	橋本　哲也 【内科専攻医へのメッセージ】 　透析患者様に対して、透析を始め循環器内科、整形外科等トータルな医療を展開しています。また、バスキュラーアクセス(VA)センターにおいては、VA 治療をテーラーメイド化し、一人ひとりに対して最適の治療を目指しています。さらに、CKD（慢性腎臓病）は、新たな国民病と言われています。その予防についても取り組みますので、専攻医の皆様にも、京都医療センターのご支援のもと、丁寧に育てていきたいと考えています。
指導医数 （常勤医）	日本透析医学会指導医６名、日本泌尿器科学会指導医３名、日本腎臓学会指導医１名
外来・入院患者数	外来患者５，８３６名（1ヶ月平均）、新規入院患者７５名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	慢性腎不全（血液透析・CAPD）。透析関連合併症（ブラッドアクセストラブルなど）
経験できる技術・技能	シャント造設術、経皮的血管拡張術（PTA）、PD カテ挿入・抜去、急性血液浄化法など
経験できる地域医	付属施設として老健、サ高住があり、透析患者の在宅治療にも古くから取り組んで

療・診療連携	おり、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本透析医学会認定施設

国立病院機構宇多野病院

1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度協力型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・国立病院機構医師（専修医）として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（管理課）があります。 ・ハラスメント委員会が宇多野病院に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 13 名在籍しています （下記）。 内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者・プログラム管理者（院長））にて、基幹施設,連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置しています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績　医療倫理 2 回、医療安全 12 回、感染対策 ２回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2026 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催 （2025 年度実績 3 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域１３分野のうち、総合内科、神経、、膠原病、感染症の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で１演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	葛谷　聡 【内科専攻医へのメッセージ】 宇多野病院は神経・筋疾患、リウマチアレルギー疾患については、多数の症例蓄積があり、特に神経・筋疾患については、190 床、年間 1,100 件以上の入院で、我が国でもっとも多数の診療実績のある病院の一つで、これまでの神経学会の専門医は合格率 100%です。昭和５５年に設置された臨床研究部からは、我が国のガイドラインに寄与するような先駆的な臨床研究がなされており、臨床研究の指導体制も整っています。京都大学大学院医学研究科臨床神経学との連携もあり、研修後に当院での臨床研究で学位取得を目指すことも可能です。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　１３名 日本内科学会総合内科専門医１０名 日本神経学会専門医１４名 日本リウマチ学会専門医２名 日本てんかん学会専門医２名
外来・入院患者数	外来患者　２６８８.４２名（1か月平均） 入院患者　２７７.６名（１日平均）

病床	310 床
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある１３領域、７０疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会教育関連病院、日本神経学会教育施設、日本リウマチ学会教育施設などに指定されている。

枚方公済病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・基幹型初期臨床研修制度研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・国家公務員共済組合連合会枚方公済病院非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会が国家公務員共済組合連合会枚方公済病院に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室・更衣室・仮眠室・シャワー室，当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 19 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会【統括責任者（院長）、プログラム管理者（部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）；にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2017 年度実績 28 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2017 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（地域医療集談会、北河内地域救急医療合同カンファレンス、枚方公済病院循環器地域連携カンファレンス、枚方公済病院消化器病症例検討会；2017 年度実績 13 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2017 年度開催実績 1 回）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 専門研修に必要な剖検を行いうる体制が整います。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室，写真室などを整備しています。当院で使用可能なインターネット上の医学データベースは以下の通りです。 Up to Date，Cochrane Library、DynaMed、EBSCO MEDLINE Complete、

	ProQuest、 Ovid、PubMed@KKR 専用、KKR Library e-Journal List （国家公務員共済組合連合会中央図書館【虎ノ門病院図書館】所蔵のオンラインジャーナル）、JDream （医学薬学および科学全般の国内文献情報検索データベース） ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2017 年度実績 1 回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2017 年度実績 6 回）しています。 ・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2017 年度実績 3 演題）をしています。
指導責任者	北口　勝司（循環器内科部長） 【内科専攻医へのメッセージ】 「つよく、やさしく、たよれる病院」をモットーとする当院の特色として、①診療科どうしの垣根の低さと病院全体の風通しの良さ、②進取の気風と柔軟性、③ＥＲ、総合診療に代表される「断らない医療」があげられる。当院の ER では教科書的な三徴がそろった典型例が、ままみられる。このことは、臨床研修において非常に強い印象を残す経験となるのみならず、病気の自然史を理解するという、内科医にとってのかけがえのない経験となる。ビビッドな現場感を是非、借り物でない知識の源泉として実りある研修をしていただきたい。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 19 名、日本内科学会総合内科専門医 12 名 日本消化器病学会消化器専門医 4 名、日本循環器学会循環器専門医 7 名 日本糖尿病学会専門医 1 名、日本腎臓病学会専門医 1 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本血液学会血液専門医 1 名 日本神経学会神経内科専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 1 名　ほか
外来・入院患者数	外来延患者数　545.2 名（2017 年度 1 日平均） 入院延患者数　285.0 名（2017 年度 1 日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる 地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本老年医学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会準教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本腎臓学会認定研修施設

	など

丹後中央病院

1)専攻医の環境	・臨床研修協力施設 ・研修に必要な図書室とインターネットが利用可能。 ・丹後中央病院医師として労務環境を保障。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署を設置。 ・ハラスメントに関する委員会を丹後中央病院内に整備。 ・女性専攻医が安心して勤務できるよう、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室を整備。 ・併設された院内保育所が利用可能。
2)専門研修プログラムの環境	・３名の内科指導医が在籍。 ・内科専門研修プログラム管理委員会、プログラム管理者にて、基幹施設に設置されている研修委員会と連携。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 4 分野以上で専門研修が可能な症例数を診療。
4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室等を整備。 ・倫理委員会を設置。
指導責任者	革嶋　恒明 【内科専攻医へのメッセージ】 丹後中央病院は人口約 5 万人、高齢化率 40%の京丹後市において、地域の基幹病院として重要な役割を担っています。当院はこの地域のニーズに応えるべく、専門的かつ総合的な医療サービスの提供に努めており、地域完結型の医療を目指し、京都大学からの応援も受けて計 21 の診療科を設置しています。プログラムを通じて、患者の入院から退院までを一貫して担当し、全人的医療を実践することで、優れた内科専門医としての見識を強めることが期待できます。研修を通じて、地域に根差した医療理解し、内科医としての幅広い視野を身につけてください。研修中に直面する様々な課題を乗り越えるために、チーム全体で協力し、ともに地域医療の未来を切り拓いていきましょう。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　3 名 日本内科学会総合内科専門医　5 名 日本消化器病学会消化器病専門医　3 名 日本消化器内視鏡学会専門医　3 名 日本循環器内科学会専門医　2 名 日本プライマリーケア学会認定指導医　1 名 日本肝臓学会認定肝臓専門医　1 名

外来・入院患者数	外来患者　3247　名（内科系） 入院患者　1463　名（内科系） ※1か月平均延べ患者数
病床	一般病床 256 床、療養病床 50 床
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験可能。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験可能。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験可能。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会新専門医制度研修プログラム連携施設 日本消化器病学会専門医制度関連施設 日本消化器内視鏡学会指導連携施設 日本胆道学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設（新制度）

三菱京都病院

1)専攻医の環境	･協力型臨床研修病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。メディカルオンライン、メディカルファインダーはじめ、種々の検索が可能で、文献取り寄せも容易です。 ･病歴記載から、各種検査、画像診断、投薬などの治療のオーダーまで、すべて電子カルテにより運用され、診療の効率化と透明性に勤めています。 ･三菱グループの企業立病院の医師として、労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処するため、院内に臨床心理士が常勤としています。必要により基幹施設と連携します。 ･ハラスメント委員会が、設立母体の企業内で、企業倫理委員会の一部として設置されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるような休憩室や更衣室、シャワー、仮眠室等が配慮されています。 ･敷地内に病児用の保育室があり、病院内外を問わず保育施設等が利用できます。
2)専門研修プログラムの環境	･内科指導医が 14 名（うち総合内科専門医 6 名）が在籍しています。 ･内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2014 年度実績　医療倫理 2 回、医療安全 3 回、感染対策 1 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2015 年度実績 1 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンス（例年実績として、内科系全領域で 15 回程度）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち「総合内科」、「消化器」、「循環器」、「代謝（糖尿病）」、「腎臓」、「呼吸器」、「アレルギー」、「感染症」ならびに「救急」の分野で定常的に専門研修が可能な症例

	数を診療しています。
4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2014 年度実績 1 演題）を予定しています。
指導責任者	水野雅博 【内科専攻医へのメッセージ】 三菱京都病院は、京都市西京区の急性期病院であり、京都医療センターを基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。年間入院患者数 3214 名、平均在院日数は 7.5 日（緩和ケアを除く）です。全人的な内科医の養成が目標です。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 14 名、日本内科学会総合内科専門医 6 名、日本消化器病学会専門医 4 名、日本循環器学会専門医 4 名、日本腎臓病学会専門医 2 名、日本呼吸器学会器専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医（内科）１名、日本老年病学会専門医 2 名、日本肝臓病学会専門医 4 名、日本感染症学会専門医 1 名、日本救急学会専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 88206 名（2014. 4.1-2015. 3.31）、入院患者 3214 名（同期間）。 きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。心血管カテーテル検査、消化管内視鏡検査・治療などの症例も豊富です。 急性期医療が中心ですが、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。外来患者に占める紹介率 42%で、逆紹介率は 57%とです。 緩和ケアも学ぶことができます。
病床	一般病床 188 床
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連院、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会認定専門医指導施設、日本肝臓病学会認定施設、日本老年医学会認定施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会教育関連施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本アレルギー学会教育施設、日本呼吸器学会関連施設、日本呼吸器内視鏡学会専門医制度研修設、日本循環器学会循環器専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設、京都府がん診療推進病院、日本医療機能評価認定病院（ver6.0）、日本人間ドック学会人間ドック健診専門医研修施設

京都桂病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･嘱託常勤医師として労務環境が保障されています. ･ハラスメント相談及び苦情対応窓口あり. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ･院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログ	･内科指導医は 29 名在籍しています. ･内科専門研修プログラム管理委員会 [　統括責任者　　：宮田　仁美（血液浄化センター長，腎臓内科部長，指導

ラムの環境	医），　統括副責任者　：菱澤　方勝（血液内科部長，指導医）， 研修管理委員長：西村　尚志（副院長，呼吸器内科部長，指導医）　］ ·専門医研修プログラム委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と研修管理事務局を設置します. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績 12 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·内科合同カンファレンスを定期的に主催（2024 年度実績 8 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.（IMEC-K） ·CPC を定期的に開催（2024 年度実績 6 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·西京医師会と共同し、地域参加型のカンファレンスを定期的に多数開催しています. ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·日本専門医機構による施設実地調査に研修管理事務局が対応します. ·特別連携施設（南丹みやま診療所）の専門研修では，電話や面談・カンファレンス・委員会などにより指導医がその施設での研修指導を行います.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）. ·70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）. ·専門研修に必要な剖検を行っています.（2024 年度実績 9 体）
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室を整備しています. ·臨床倫理委員会を設置し，定期的に開催しています. ·治験委員会，臨床研究・倫理委員会が別にあり、各毎月 1 回開催しています. ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	宮田　仁美（血液浄化センター長，腎臓内科部長，指導医） 【内科専攻医へのメッセージ】 京都・乙訓医療圏南部の急性期病院で、地域がん診療拠点病院でかつ地域医療支援病院です．地域の医療施設と連携しつつ責任感を持って地域の医療に貢献しています。同時に、初期および後期臨床研修病院として、医師のみならず多くの医療職の教育研修を行ってきました．そのような環境の中で、内科という医療の中でも中核を担う領域で、全人的・患者中心かつ標準的・先進的内科的医療の実践を志す内科専門医志望者を、連携病院とともに丁寧に育てていきたいと考えています.
指導医・専門医 （常勤医） (2025 年 4 月現在)	内科指導医 29 名 日本内科学会指導医，日本内科学会総合内科専門医（28 名） 日本消化器病学会消化器専門医，日本循環器学会循環器専門医， 日本糖尿病学会専門医，日本腎臓病学会専門医， 日本呼吸器学会呼吸器専門医，日本血液学会血液専門医， 日本神経学会神経内科専門医，日本アレルギー学会専門医， 日本リウマチ学会専門医， 日本救急医学会救急科専門医，　ほか

外来・入院患者数（2024 年 1 月~12 月）	総外来患者 182,303 名（年間実数）　総入院患者 18,361 名（年間実数）
病床数	551 床　（一般病棟 545 床，結核 6 床）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本呼吸器内視鏡学会 専門医制度認定施設 日本呼吸器学会 認定施設 日本臨床腫瘍学会 認定研修施設 日本消化器病学会 専門医制度認定施設 日本がん治療認定医機構 認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会 研修施設 日本糖尿病学会 認定教育施設 日本内分泌学会 認定教育施設 日本甲状腺学会 認定専門医施設 日本内科学会 認定医制度教育病院 日本循環器学会 循環器専門医研修施設 日本骨髄バンク 非血縁者間骨髄採取・移植認定施設 日本血液学会 認定血液研修施設 日本消化器内視鏡学会 専門医制度指導施設 日本リウマチ学会 教育施設 日本救急医学会 救急科専門医指定施設 日本不整脈学会日本心電学会認定 不整脈専門医研修施設 日本胆道学会認定施設指導医制度 指導施設認定 日本気管食道科学会 研修施設認定 日本消化管学会 胃腸科指導施設 日本肝胆膵外科学会 高度技能専門医修練施設 B 日本腎臓学会 研修施設 日本アフェレシス学会 認定施設 日本超音波医学学会認定超音波専門医研修施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本造血細胞移植学会認定 非血縁者間造血幹細胞移植認定施設 JALSG（日本成人白血病治療合同研究グループ）参加施設 経皮的カテーテル心筋冷凍焼灼術に関する施設　など

大津赤十字病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・大津赤十字病院医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。 ・ハラスメントに関する委員会が大津赤十字病院内規程に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるよう、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり　利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2） 専門研修プログラムの環境	・指導医は 17 名在籍しています（下記）。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管理者（副院長）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3） 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 9 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2020 年度 6 体、2021 年実績 8 体、2022 年実績　5 体、2023 年実績　4 体、2024 年実績　7 体）を行っています。.
認定基準 【整備基準 24】 4） 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験審査委員会を設置し、受託研究審査会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をして
指導責任者	河南　智晴 【内科専攻医へのメッセージ】 滋賀県下で最大病床数の基幹病院としての特徴を生かし、高度な研修が可能です。例えば、以前からの救命救急センターが平成 25 年 8 月には改めて高度救命救急センターの指定を受けています。その他、68 項目の研修認定施設で、将来どの分野を専攻するにしても、充実した指導体制の中で高度な研修ができます。中でも内科は、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、腎臓内科、血液・免疫内科、糖尿病・内分泌内科、神経内科、化学療法科の 8 診療科がそれぞれ
指導医数 （常勤医）	17 名　（総合内科専門医 29 名）
外来・入院 患者数	外来患者 29,253 名（1 ヶ月平均） 入院患者 1,539 名（1 ヶ月平均）　2024 年 4 月 － 2025 年 3 月実績
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。

経験できる技術技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本血液学会認定医血液研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本肝臓学会認定施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本神経学会専門医制度教育関連施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 非血縁者間骨髄採取認定施設 非血縁者間骨髄移植認定施設 日本老年医学会認定施設 日本てんかん学会研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本胆道学会認定指導施設

国立循環器病研究センター病院

1)専攻医の環境	研修に必要な図書館とインターネット環境を有しています。また専攻医用の官舎を有しています。女性医師専用の当直室、ロッカーが整備されています。また院内託児所が利用可能です。非常勤医師としての労務環境（社会保険・雇用保険など）が補償されています。
2)専門研修プログラムの環境	当院ではカンファレンスや専門医師からレジデントに対するレクチャー、勉強会が頻繁に行われています。仲間が経験した症例を共有でき、また各分野における基本的な知識とともに最新の知見を習得することができます。レジデントアワードといって、年 1 回、数人の優秀者に表彰と金一封が贈られる制度もあります。教科書に名を連ね、学会で講演や座長を務める医師のレクチャーが日常的に行われているのも当院の魅力の一つではないでしょうか
3)診療経験の環境	脳・心臓病の最先端治療からその基盤となる生活習慣病や代謝異常の管理まで、循環器疾患をオールラウンドに、かつ専門的に学ぶことができます。多様性に富んだ数多くの症例を担当できることが大きな特徴です。また当院は大学病院も含めた他院からの紹介が多いため、当院でしか経験出来ない様な診断困難例や高度先進医療適応例が多く、複雑な病態やまれな疾患に対しても的確な対応力がつくと思います。

4)学術活動の環境	ナショナルセンターとして循環器病臨床で日本をリードする研究を行っています。専攻医もテーマを与えられ積極的に学会発表、論文発表を行う環境にあります。
指導責任者	安斉　俊久 【内科専攻医へのメッセージ】 循環器病を治療する専門医を目指して、多くの経験を積みたいと考えている皆さんにとって、当センターは最適の医療施設です。必ずや皆さんの将来にとって有意義なものになると確信しています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 45 名、日本内科学会総合内科専門医 27 名
外来・入院患者数	外来患者 12670 名（1 ヶ月平均）　入院患者　489 名（1 日平均）
病床	612 床〈特定集中治療室 38 床など 〉
経験できる疾患群	当センター病院は、心臓疾患、脳血管疾患などの循環器疾患およびこれらの危険因子となる疾患を扱う国立高度医療施設です。循環器病の専門病院としては、その規模、症例数、医療の質いずれも周囲からの高い評価を得ています。
経験できる技術・技能	循環器系の専門医取得に必要な技術に加えて脳・心臓病の最先端治療に至るまで学ぶことが出来ます。
経験できる地域医療・診療連携	脳卒中予防のための地域連携、心臓リハビリのための地域連携など当院の特徴を活かした地域連携にも取り組んでいます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院、日本循環器学会認定研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、日本心臓リハビリテーション認定研修施設、日本脈管学会脈管専門医研修指定施設、日本超音波医学会超音波専門医研修施設、ペースメーカー移植術認定施設、埋込型除細動器移植術認定施設、日本脳卒中学会認定研修教育病院、日本神経学会認定教育施設、日本高血圧学会専門医施設、日本腎臓学会専門医施設、日本透析医学会専門医施設、日本糖尿病学会認定研修施設、日本アフェレシス学会認定施設

天理よろづ相談所病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･内科専攻医もしくは指導診療医として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります. ･ハラスメント委員会が整備されています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています. ･敷地内に院内保育所があり，病児保育，病後児保育を含め利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 37 名在籍しています（下記）. ･内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 医療安全・感染対策　E-learning 開催）します。 ･CPC を定期的に開催（2025 年度実績 5 回）します。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野を定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準	日本内科学会講演会あるいは同地方会に学会発表（2019 年度実績　10 演題）

【整備基準 24】 4)学術活動の環境	をしています.
指導責任者	羽白　高 【内科専攻医へのメッセージ】 来る高齢化社会では患者の1つの病気をただ治すといった治療モデルでは難しく、多疾患の同時並行的な治療を求められる。またキュアからケアへの移行、患者との死生観の共有が必要と考えられる。天理よろづ相談所病院は昭和51年よりレジデント制度を開始し、昭和53年よりシニアレジデントの内科ローテイトコースを行っている。また奈良県東和医療圏の急性期病院として役割を担っている。これらの経験を活かし、専門的な臓器別診療だけではなく、内科全般や更に医療周辺の社会機構にわたる幅広い知識や経験を基礎にバランスよく患者を診療する能力をもった内科医を養成したいと考えている。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 37 名 日本内科学会総合内科専門医 33 名 日本消化器病学会消化器専門医 8 名 日本循環器学会循環器専門医 9 名 日本内分泌学会専門医 5 名 日本糖尿病学会専門医 2 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 9 名 日本血液学会血液専門医 5 名 日本神経学会神経内科専門医 4 名 日本アレルギー学会専門医（内科）2 名 日本リウマチ学会専門医 2 名 日本感染症学会専門医 1 名ほか
外来・入院患者数	外来：約 1,800 名（1 日平均） 入院：約 500 名（1 日平均延）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本肝臓学会専門医制度認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会専門医教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院

	日本感染症学会専門医研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 ステントグラフト実施施設（胸部） ステントグラフト実施施設（腹部） 日本内分泌学会内分泌学会認定教育施設 日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本内分泌･甲状腺外科学会専門医制度認定施設　など

日本赤十字社和歌山医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･日本赤十字社和歌山医療センター常勤嘱託医師として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります. ･ハラスメントに適切に対処する，苦情・相談体制が整っています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ･隣接地に院内保育所，センター内に病児保育があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医は 24 名在籍しています.（2026 年 4 月現在）. ･内科専門医研修プログラム管理委員会が設置されており，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門医研修委員会を設置します. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催（2025 年度実績 3 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2025 年度開催実績 2 回）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･その他、事務対応，施設実地調査は業務部研修課が対応します.
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 8 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます. ･専門研修に必要な剖検（2022 年度 6 体、2023 年度 1 体、2024 年度 4 体、2025 年度 6 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室（24 時間利用可），統計解析ソフト JMP などを整備しています. ･倫理委員会を設置し，定期的に開催しています. ･治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催しています. ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2025 年度実績 3 演題）をしています.
指導責任者	静田　聡　（循環器内科主任部長）

	【内科専攻医へのメッセージ】 日本赤十字社和歌山医療センターは，和歌山県和歌山医療圏の中心的な急性期病院であり，三次医療圏・近隣医療圏にある連携・特別連携施設とで内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します. 主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 24 名 日本内科学会総合内科専門医 37 名 日本消化器病学会専門医 8 名 日本肝臓学会肝臓専門医 7 名 日本循環器学会循環器専門医 5 名 日本内分泌学会専門医 2 名 日本糖尿病学会専門医 3 名 日本腎臓学会専門医 5 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名 日本血液学会専門医 2 名 日本神経学会神経内科専門医 2 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 7 名 日本感染症学会専門医 3 名 日本救急医学会救急科専門医 6 名 日本老年病学会専門医 1 名　ほか
外来・入院患者数 （内科領域年間）	内科の延外来患者 161,475 名 内科の新入院患者　 8,986 名（2025 年度）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会関連施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本神経学会専門医制度准教育関連施設 日本感染症学会認定研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡認定施設 非血縁者間骨髄採取・移植認定施設 非血縁者間末梢血幹細胞移植・採取認定施設

	日本透析医学会専門医制度認定施設 日本救急医学会専門医指定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本肥満症学会認定肥満症専門病院 日本心身医学会研修施設　　ほか

神戸市立医療センター中央市民病院

認定基準 【整備基準 24】 1） 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・神戸市立医療センター中央市民病院の任期付正規職員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対応出来るよう相談窓口（市役所）を設置及び産業医を配置しています。 ・ハラスメントの防止及び排除並びにハラスメントに起因する問題が生じた場合、迅速かつ適切な問題解決を図るためハラスメント相談窓口及びハラスメント防止対策委員会を設置しています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 ２）専門研修プログラムの環境	・指導医は 38 名在籍しています（下記）。 ・内科研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（医療安全：6 回、感染対策：2 回、医療倫理：1 回）し、　専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2025 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（腹部超音波カンファレンス、びまん性肺疾患勉強会、がんオープンカンファレンス、緩和ケアセミナー　など　2025 年度実績 32 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3）　診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症、救急の全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2023 年度実績 27 体、2024 年度実績 25 体、2025 年度実績 21 体）を行っています。

認定基準 【整備基準 24】 4)　学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、学術支援センターなどを設置しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・臨床研究推進センターを設置しています。 ・定期的に IRB、受託研究審査会を開催（2025 年度実績各 12 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2024 年度実績 8 演題）をしています。
指導責任者	古川　裕 【内科専攻医へのメッセージ】 当院の診療体制の大きな特徴は、北米型 ER（救命救急室）、つまり 24 時間・365 日を通して救急患者を受け入れ、ER 専任医によって全ての科の診断および初期治療を行い、必要に応じて各専門科にコンサルトするというシステムにあります。年間の救急外来患者数は 26,000 人以上、救急車搬入患者数も 8,000 人を超え、独立した救急部と各科スタッフ、初期研修医、専攻医が緊密に連携して、軽傷から重症までのあらゆる救急患者に対応しています。この中で専攻医は初期研修から各科の専門的診療に至る過程で重要な役割をはたしており、皆さんがどの診療科を選択しても、大学病院など 3 次救急に特化した施設では得られない、医療の最前線の広範な経験を重ねることができます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 39 名 日本内科学会総合内科専門医 44 名 日本消化器病学会消化器専門医 10 名 日本アレルギー学会専門医 3 名 日本循環器学会循環器専門医 10 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 6 名 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 2 名 日本感染症学会専門医 4 名 日本腎臓学会専門医 5 名 日本糖尿病学会専門医 4 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 9 名 日本呼吸器学会老年病専門医 1 名 日本血液学会血液専門医 8 名 日本肝臓学会肝臓専門医 5 名 日本神経学会神経内科専門医 8 名 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 6 名 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 6 名 日本救急医学会救急科専門医 17 名　　ほか
外来・入院患者数	外来患者　34,980 名（1 ヶ月平均）2025 年度 入院患者　20,318 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある　13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に

技能	基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラム　基幹施設 日本老年医学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベーション学会認定研修施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本脳神経血管内治療学会指定研修施設 呼吸器専門研修プログラム　基幹施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医指導施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本感染症学会研修施設 日本環境感染学会教育施設 日本静脈経腸栄養学会栄養サポートチーム専門療法士実地修練認定教育施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本禁煙学会教育施設 日本がん治療認定医機構研修施設 日本臨床腫瘍内科学会認定研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門研修施設 救急科専門医指定施設　　など〃

京都大学医学部附属病院

認定基準 【整備基準 23】 1)　専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・医員室（院内 LAN 環境完備）・仮眠室有 ・専攻医の心身の健康維持の配慮については各施設の研修委員会と労働安全衛生委員会で管理します。特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は臨床心理士によるカウンセリングを行います。 ・ハラスメント委員会が整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャ

	ワー室，当直室が整備されています. ・敷地内に院内保育所があり，病児保育，病後児保育を含め利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)　専門研修プログラムの環境	·指導医が 98 名在籍しています. ·内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ·専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC（2015 年度 24 回　開催）、地域連携カンファレンス、医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します。そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科を除く，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会を含め 2015 年度は計 53 題の学会発表をしています.
指導責任者	高橋良輔（神経内科教授） 【内科専攻医へのメッセージ】 京都大学病院は地域医療と密接に連携した高水準の診療と未来の医療を創造する臨床研究に力を注いでいます。本プログラムの目的は初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が地域の協力病院と連携して、総合力にも専門性にも優れた内科医を養成することです。患者中心で質の高い安全な医療を実現するとともに、新しい医療の開発と実践を通して社会に貢献し、専門家の使命と責任を自覚する志高く人間性豊かな医師を育成します。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 98 名 日本内科学会総合内科専門医 50 名 日本消化器病学会消化器専門医　22 名 日本肝臓学会専門医 14 名 日本循環器学会循環器専門医 10 名 日本内分泌学会専門医 16 名 日本糖尿病学会専門医 12 名 日本腎臓病学会専門医 10 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 10 名, 日本血液学会血液専門医 9 名 日本神経学会神経内科専門医 14 名, 日本アレルギー学会専門医（内科）1名 日本リウマチ学会専門医87名 日本感染症学会専門医 3名 日本救急医学会救急科専門医 2名ほか
外来・入院患者数	内科系延外来患者　　24,898 名（1 ヶ月平均）（298,780 名/年） 内科系入院患者（実数）　561 名（1 ヶ月平均）（ 6,740 名/年〉
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.

経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本血液学会認定血液研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本高血圧学会専門医認定施設 日本病態栄養学会認定栄養管理・ＮＳＴ実施施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベーション治療学会研修施設 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設（呼吸器内科） 日本リウマチ学会教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設

静岡市立静岡病院

認定基準 【整備基準 23】 1)　専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･地方独立行政法人静岡市立静岡病院非常勤医師として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（臨床心理士が担当する「こころの保健室」）があります. ･ハラスメント委員会が静岡市立静岡病院に整備されています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ･敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)　専門研修プログラムの環境	･指導医は 22 名在籍しています（2019 年 1 月現在）. ･内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副病院長・日本内科学会指導医），プログラム管理者（副病院長・総合内科専門医かつ指導医）にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ･教育研修管理センターと内科専門研修委員会において，基幹施設内で研修する専攻医の研修を管理します. ･医療倫理については臨床研究倫理セミナーとして倫理指針の資料を配布して報告書の提出の義務付けを行います。 ・感染対策については講習会を定期的に開催（2017 年度実績 3 回＋再講演、ビデオ上映会）、また、医療安全については研修会等を定期的に開催（2017 年度実績 6 回＋再講演、ビデオ上映会）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.

	·CPC を定期的に開催（2017 年度実績 9 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンス（基幹施設主催のもの：静岡病診がんカンファレンス（2017 年度実績 12 回），静岡病院病診連携総会講演会；. このほか基幹施設が参加する医師会主催のものは虚血性心疾患ネットワーク総会，脳卒中医療連携総会，清水循環器カンファレンスなど多数）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2019 年度開催実績 1 回：受講者 11 名、2018 年度開催実績 1 回：受講者 12 名、2020 年度 1 回開催予定）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·日本専門医機構による施設実地調査に教育研修管理センターが対応します.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち神経を除く 12 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）. ·70 疾患群のうち神経内科領域を除くほぼ全疾患群について研修できます（上記）. ·専門研修に必要な剖検（2017 年度 11 体,2018 年度 18 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室，写真室などを整備しています. ·倫理委員会を設置し，定期的に開催（2017 年度実績 6 回）しています. ·治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催（2017 年度実績 9 回）しています. ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2017 年度実績 3 演題）をしています.
指導責任者	前田　明則 【内科専攻医へのメッセージ】 前田　明則 静岡市立静岡病院は，静岡県静岡医療圏の中心的な急性期病院であり，静岡医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します. 主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医19名，日本内科学会総合内科専門医20名 日本消化器病学会消化器専門医10名，日本循環器学会循環器専門医12名， 日本内分泌代謝科専門医2名，日本糖尿病学会専門医3名， 日本腎臓病学会専門医2名，日本呼吸器学会呼吸器専門医6名， 日本血液学会血液専門医2名，日本神経学会神経内科専門医0名， 日本アレルギー学会専門医（内科）2名，日本リウマチ学会専門医0名， 日本感染症学会専門医0名，日本救急医学会救急科専門医2名，ほか
外来・入院患者数	外来患者 24,003 名（1 ヶ月平均）　入院患者 1,052 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	神経領域疾患及びきわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.

学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本内分泌学会専門医認定教育施設 日本消化器病学会専門医認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本肥満学会認定肥満症専門施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度関連認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医准教育研修施設、など

静岡県立総合病院

認定基準 【整備基準 23】 1）専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･地方独立行政法人静岡県立病院機構職員の常勤医師（有期職員として)労務環境が保証されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課）があります。 ･ハラスメントに対処する部署、委員会が、病院内に整備されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、 シャワー室、当直室が整備されています。･敷地内に院内保育所があり、利用可能です。また、地元幼稚園との連携保育も行っています。
認定基準 【整備基準 23】 2）専門研修プログラムの環境	･指導医が 48 名在籍しています。 ･内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策研修会を定期的に開催（2019 年度実績：医療倫理 1 回、医療安全 13 回、感染対策 10 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンス（予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2019 年度実績 8 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型の内科の領域別カンファレンスを、地域の病院と合同で月に 2,3 回開催し、専攻医の受講を促進、そのために時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3）診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 11 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 65 以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（参考　2019 年度実績 12 体，2018 年度 13 体，2017

	年度実績 10 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4）学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 15 演題の学会発表を予定しています。 ・臨床研究に必要な図書室などを整備しています. ・インターネットにおける文献検索の充実化を医師、専攻医の要望により図っています。 ・倫理委員会を設置し，定期的に開催（2018 年度実績 15 回）しています. ・臨床試験管理室を設置し，２ヶ月に１回、臨床試験管理委員会を開催（2018 年度実績６回）しています．また、治験審査委員会を月に１回開催（2019 年度実績 12 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2018 年度実績 3 演題）をしています。
指導責任者	袴田　康弘 【内科専攻医へのメッセージ】 静岡県立総合病院は，高度救命救急センターを擁した、静岡県の中心的な急性期病院であり、内科専門研修プログラムの連携施設として、内科専門研修を行い、内科専門医育成を行います。
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医　11 名、日本内科学会総合内科専門医　34 名 日本消化器病学会専門医　8 名、日本循環器学会循環器専門医　11 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医　7 名、日本リウマチ学会専門医　1 名 日本腎臓病学会専門医　4 名　日本神経内科学会専門医　3 名 日本血液学会血液専門医　3 名、日本アレルギー学会専門医　4 名 日本内分泌学会専門医　8 名　日本糖尿病学会専門医　6 名 日本老年学会専門医　1 名　日本救急医学会　救急科医学会　ほか
外来・入院患者数	外来：1,863 名（全科 1 日平均：令和元度年実績） 入院： 618 名（全科 1 日平均：令和元年度実績）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度認定教育施設、日本血液学会血液研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本内分泌学会認定教育施設、日本神経学会専門医教育施設、日本呼吸器学会認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本消化器病学会専門医認定施設、日本腎臓学会研修施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本透析医学会専門医認定施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本リウマチ学会教育施設、日本胆道学会認定指導医制度指導施設、日本老年医学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本消化器内視鏡学会認定指導施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設、日本超音波医学会専門医研修施設、日本急性血液浄化学会認定施設、日本脳卒中学会認定研修教育病院、日本アレルギー学会認定教育施設

彦根市立病院

1）専攻医の環境 【整備基準 24】	・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 彦根市立病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・ 敷地内に研修医専用の宿舎を完備しています 。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（事務局職員課）があります。 ・ ハラスメント委員会が彦根市立病院に整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり，利用可能です。
2）専門研修プログラムの環境 【整備基準 24】	・ 総合内科専門医が11名在籍しています。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPCを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファランスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・ プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。
3）診療経験の環境 【整備基準 24】	・ カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科，消化器，循環器，呼吸器，代謝，血液，神経，腎臓，膠原病，感染症および救急の11分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・ 70疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・ 専門研修に必要な剖検を行っています。
4）学術活動の環境 【整備基準 24】	・ 臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3 演題以上の学会発表をしています。 ・ 倫理委員会を設置し，定期的に開催しています。 ・ 専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり，和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。
指導責任者	黒江彰 【内科専攻医へのメッセージ】 彦根市立病院は滋賀県湖東医療圏の基幹病院であり、がん、虚血性心疾患、脳卒中、糖尿病などの疾患について、各分野の専門医や指導医が在籍しており、予防から侵襲的治療までを幅広く、深く経験することが可能です。多職種によるチーム医療も活発に行っています。また、非常に多くの救急患者を受け入れていることも当院の特徴ですが、2016 年度からは在宅医療支援室が設置され、急性期から在宅まで切れ目のない医療を提供できることを目指しています。当院での研修により、幅広い知識とすぐれたサブスペシャリティー技能を備えた総合内科専門医になれます。

指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 5名 日本内科学会総合内科専門医 11名 日本循環器学会専門医 4名 日本消化器病学会専門医 2名 日本肝臓学会専門医 1名 日本呼吸器学会専門医 3名 日本呼吸器学会指導医 1名 日本糖尿病学会認定専門医 1名 日本糖尿病学会指導医 1名
外来・入院患者数	・ 外来患者 346.9名（1日平均），入院患者 160.1名（1日平均） ・ 救急患者数 14,832人/年，救急車搬送件数：4,597件（受入れ率99%以上）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．2015 年に多職種連携を実践する拠点として彦根市医療福祉複合施設（くすのきセンター）が病院敷地内に設置されました。地域包括ケアを理解し多職種との協働を経験できる環境が整っています。
学会認定施設（内科系）	・日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 ・日本消化器病学会専門医制度関連施設 ・日本糖尿病学会認定教育施設 ・日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 ・日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 ・日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 ・日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 ・日本臨床腫瘍学会認定研修施設（連携施設） ・日本血液学会専門研修教育施設

市立長浜病院

1）専攻医の環境 【整備基準 24】	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります． ・市立長浜病院常勤医師として労務環境が保障されています． ・医師専用の官舎を完備しています ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります． ・ハラスメント委員会が市立長浜病院に整備されています． ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています． ・敷地内あるいは病院敷地内に院内保育所があり，利用可能です．

2）専門研修プログラムの環境 【整備基準 24】	・総合内科専門医が 9 名在籍しています. ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます.
3）診療経験の環境 【整備基準 24】	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，循環器，呼吸器，代謝、血液，神経，腎臓および膠原病の 9 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます. ・専門研修に必要な剖検を行っています.
4）学術活動の環境 【整備基準 24】	・臨床研究に必要な図書室を整備しています. ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています. ・倫理委員会を設置し，定期的に開催しています. ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり，和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています.
指導責任者	高島　弘行 【内科専攻医へのメッセージ】市立長浜病院は滋賀県湖北医療圏の基幹病院であり、がん、虚血性心疾患、脳卒中、糖尿病などの疾患について、各分野の専門医や指導医が在籍しており、予防から侵襲的治療までを幅広く、深く経験することが可能です。多職種によるチーム医療も活発に行っています。また、非常に多くの救急患者を受け入れていることも当院の特徴で、急性期から在宅まで切れ目のない医療を提供できることを目指しています。当院での研修により、幅広い知識とすぐれたサブスペシャリティー技能を備えた総合内科専門医になれます。

指導医数（常勤医）	日本消化器病学会消化器専門医数４人 日本循環器学会循環器専門医数４人 日本糖尿病学会専門医数２人 日本腎臓病学会専門医数３人 日本呼吸器学会呼吸器専門医数２人 日本血液学会血液専門医数１人 日本神経学会神経内科専門医数１人 日本リウマチ学会専門医数３人
外来・入院患者数	外来：216,780 人 入院：117,884 人
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携な　ども経験できます. 平成 22 年に多職種連携を強化する部門として地域医療事業部が院内に設置し、地域包括ケアを理解し多職種との協働を経験できる環境が整っています。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本血液学会認定研修施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡研修施設 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 日本老年医学会認定老年病専門医制度認定 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本緩和医療学会認定研修施設

滋賀県立総合病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･滋賀県の非常勤医師として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（滋賀県病院事業庁内）があります。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり、利用可能です。

認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医が 10 名以上在籍しています。 ·内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2019 年度の実績 医療倫理 1 回、医療安全 5 回、感染対策 3 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群等で開催するカンファレンスに参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンス（地元医師会合同勉強会、全県型のメディカル・カンファレンスなど）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、すべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2019 年度は実績 8 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で 3 演題以上の学会発表をしています。 ·倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ·治験事務局を設置し、定期的に治験委員会を開催しています。 ·専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も積極的に行われています。
指導責任者	山本　泰三 【内科専攻医へのメッセージ】 　当院は滋賀県のがん拠点病院であり、がんについて豊富な症例と数多くのセミナーを経験できます。がんに関する教育・予防、診断・治療、緩和ケア、支援体制も充実しています。 　虚血性心疾患、脳卒中、糖尿病などがん以外の生活習慣病についても、各分野の専門医や指導医が在籍しており、予防から侵襲的治療までを幅広く、深く経験することが可能です。その他の内科疾患についても、研修手帳に定める 70 疾患群を網羅的に研修することが可能です。多職種によるチーム医療も活発に行われています。当院での研修を活かし、今後さらに重要性が増す生活習慣病の subspecialty の専門医として、あるいは幅広い知識・技能を備えた generalist の内科専門医になれるよう頑張ってください。
指導医・専門医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　　日本内科学会総合内科専門医 日本糖尿病学会指導医　日本糖尿病学会専門医 日本消化器病学会指導医　日本消化器病学会専門医 日本肝臓学会専門医 日本循環器病学会専門医 日本血液学会指導医　日本血液学会専門医 日本神経学会指導医　日本神経学会専門医 日本呼吸器学会指導医　日本呼吸器学会専門医　など
外来・入院患者数	外来患者名 18,144 名（1 カ月平均）　入院患者数 400 名（1 日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医	急性期医療だけでなく、超高齢社会にも対応した地域医療、病診、病病連携

療・診療連携	を経験できます。特にがん・動脈硬化性疾患などの生活習慣病に関した連携が充実しています。

京都府立医科大学附属北部医療センター

1）専攻医の環境 【整備基準 24】	・当センターは、初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・施設内に研修に必要なインターネット環境を整備している。 ・京都府立医科大学附属北部医療センター専攻医として労務環境が保障されている。 ・メンタルストレスに適切に対処するため基幹施設である京都府立医科大学附属病院と連携している。 ・ハラスメント委員会も設置している。 ・敷地内に院内保育所を整備し、利用可能である。
2）専門研修プログラムの環境 【整備基準 24】	・内科指導医が 5 名在籍している。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設である京都府立医科大学附属病院のプログラム管理委員会と連携を図っている。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催している。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付けている。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付けている。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付けている。
3）診療経験の環境 【整備基準 24】	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、いずれかの分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。 ・70 疾患群のうち、多くの疾患群（少なくとも 45 以上の疾患群について研修できる。） ・専門研修に必要な院内カンファレンス（消化器カンファレンス、循環器カンファレンス、内科外科カンファレンス、病理カンファレンス、キャンサーボード、緩和ケアカンファレンスなど）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付けている。 ・専門研修に必要な剖検（2025 年度 1 体）を行っている。
4）学術活動の環境 【整備基準 24】	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に学会発表をしている。 さらに、各 Subspeciality 分野の地方会には多数演題発表している。

指導責任者	副病院長兼診療部長　堅田和弘
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 5 名 日本内科学会総合内科専門医 4 名 日本消化器病学会消化器専門医 5 名 日本消化器内視鏡学会専門医 5 名 日本肝臓学会専門医（内科）2 名 日本循環器学会循環器専門医 2 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名 日本腎臓病学会専門医 1 名 日本透析医学会専門医 1 名 日本神経学会神経内科専門医 2 名 日本救急医学会救急科専門医 1 名
外来・入院患者数	2025 年度外来患者　132,677 名 2025 年度入院患者　 71,243 名
経験できる疾患群	・研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例の多くを経験することができる。 ・感染症、寄生虫症、新生物、血液・造血器の疾患、免疫機構の障害 ・内分泌、栄養・代謝疾患、精神・行動の障害、神経系疾患 ・耳・乳様突起疾患、循環器系疾患、呼吸器系疾患、消化器系疾患 ・皮膚・皮下組織疾患、筋骨格系・結合組織疾患、尿路性器系疾患 ・妊娠、分娩・産褥症状 ・徴候・異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの ・損傷、中毒・その他の外因の影響 ・健康状態に影響を及ぼす要因
経験できる技術・技能	・技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。
経験できる地域医療・診療連携	・地域に根ざす中核病院である。 ・コモンディジーズの経験をすると同時に、病院との病病連携や診療所や開業医との病診連携を積極的に行っている。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本病院総合診療医学会認定施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器研修関連施設 日本透析医学会認定医制度教育関連施設 日本神経学会専門医制度認定准教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 など

公立豊岡病院組合立豊岡病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	･基幹型臨床研修病院(初期臨床研修)に指定されています. ･研修に必要な図書館・インターネット環境・個人用机を完備しています. ･公立豊岡病院での研修期間中の就業条件は豊岡病院と基幹施設との協定に基づき保障されます. ･メンタルストレスに適切に対処する部署(安全衛生委員会・産業医)があります. ･苦情処理委員会がハラスメントに対応します. ･女性専用の更衣室・シャワー室を完備しています. ･敷地内に院内保育所を開設しています. ･医師用宿舎を備えています.
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	･指導医が 15 名在籍しています. ･専門研修プログラム管理委員会を設置しプログラム内で研修する専攻医の研修を管理します. ･専攻医に対し，医療倫理，医療安全，感染症対策講習会の受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を開催し，専攻医の受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･各診療科では定期的にカンファレンスを開催し，専攻医の受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･Web 会議システムを活用した地域参加型カンファレンスを定期的に開催しています. 地域参加型のカンファレンス（基幹施設：但馬内科医会，但馬内科合同カンファレンス，但馬消化器疾患研究会，（Web 会議システムによる）兵庫ＧＩＭカンファレンス(月 1 回)，県養成医カンファレンス(週 1 回)） ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･日本専門医機構による施設実地調査に教育研修部が対応します.
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	･カリキュラムに提示した 13 領域全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を確保しています. ･専門研修に必要な剖検数（2022 年度 4 件,2023 年度 1 件,2024 年度 4 件,2025 年度 3 件）を確保しています.
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室を整備しています. ･倫理委員会を設置し，開催しています. ･治験審査委員会を設置し，開催しています. ･日本内科学会講演や地方会において学会発表を行うことが可能です. ･学会参加費を助成しています.

指導責任者	木村　利幸（消化器科顧問） 【内科専攻医へのメッセージ】 公立豊岡病院は北兵庫地域の 528 床を有する地域中核病院であり，ドクターヘリ・ドクターカーを持つ救命救急センターもあるため，広域の医療圏から数多くの患者が集中いたします。このため，救急内科疾患をはじめ，希有な疾患から common disease まで幅広く経験していただけます。 また，我々指導医は，皆様が患者本位の全人的な医療サービスが提供できる責任感のある医師であり，かつ，学究的な医師となられるように指導させていただきます。
指導医数 （常勤医）	総合内科専門医 7 名，日本神経学会専門医 3 名･指導医 2 名，日本脳卒中学会専門医 2 名・指導医 1 名，日本呼吸器学会専門医 2 名･指導医 2 名，日本アレルギー学会専門医 1 名，日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 1 名，日本結核病学会結核・抗酸菌症認定医 1 名，日本消化器病学会専門医 4 名･指導医 1 名，日本消化器内視鏡学会専門医 3 名･指導医 1 名，日本消化管学会胃腸科専門医 1 名，日本循環器病学会循環器専門医 4 名，日本腎臓学会腎臓専門医 1 名，日本透析医学会透析専門医 1 名，日本糖尿病学会専門医 2 名･指導医 1 名，日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 1 名，日本高血圧学会専門医 1 名・指導医 1 名，プライマリ・ケア連合学会認定医 1 名・指導医 1 名（専門領域）
外来・入院　患者数	内科系入院患者数 4,879 人/月(延数・1 ヶ月平均) 内科系外来患者数 5,329 人/月(延数・1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	極めて稀な疾患を除いて，研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域 （総合内科Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器， 血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症，救急），70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術技能	技術・技能評価手帳に記載された内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することが可能.
経験できる地域医療・診療連携	【地域医療，全人的医療，病診連携・病病連携，検診の経験】 急性期医療だけでなく，主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します．そして，個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力を修得します. また，公立豊岡病院は，兵庫県但馬医療圏の中心的な急性期病院であるとともに，地域に根ざす第一線の病院でもあることから，common disease の経験はもちろん，超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき，高次病院や地域病院との病病連携や在宅訪問診療などの病診連携も経験できます.

学会認定施設 (内科系)	・日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 ・日本心血管インターベンション治療学会研修施設 ・日本神経学会専門医制度教育施設 ・日本脳卒中学会認定研修教育施設 ・日本呼吸器学会認定施設 ・日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度関連認定施設 ・日本アレルギー学会アレルギー専門医準教育研修施設 ・日本消化器病学会認定施設 ・日本消化器内視鏡学会指導施設 ・日本糖尿病学会認定教育施設 I ・日本高血圧学会専門医制度研修施設 I

高槻赤十字病院

1) 専攻医の環境 【整備基準 24】	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·高槻赤十字病院嘱託医師として労務環境が保障されています。 ·メンタルストレスに適切に対処するため、産業保険スタッフ（産業医・衛生管理者・臨床心理士）が中心となり、職員の休業から復職までの支援を行っております。 ·ハラスメント委員会が院内に整備、外部委託による相談窓口も設置しております。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ·敷地内に院内保育所・病児保育所があり、利用可能です。
2) 専門研修プログラムの環境 【整備基準 24】	·指導医は 10 名在籍しています。 ·内科専門研修プログラム管理委員会を設置して、専攻医の研修を管理し、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を人事課に設置します。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（医療倫理 1 回，医療安全 2 回以上、感染対策 2 回以上）し、専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンス（公開呼吸器カンファレンス、、公開消化器消化器カンファレンス）を定期的に開催し、 専攻医に受講を義務付けそのための時間的余裕を与えます。 ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付けそのための時間的余裕を与えます。 ·日本専門医機構による施設実地調査に人事課が対応します。 ·特別連携施設（みどりが丘病院・多可赤十字病院）の専門研修では、必要に応じて連絡をとり研修指導を行います。

3）診療経験の環境 【整備基準 24】	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます。
4）学術活動の環境 【整備基準 24】	･臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ･倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ･治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	北　英夫（プログラム統括責任者・呼吸器科部長） 【内科専攻医へのメッセージ】 高槻赤十字病院は、大阪府北部に位置する北摂地域の中心的な急性期病院の一つです。subspecialty 各領域の研修とともに、中規模病院の特徴である各科の垣根の低い横断的な研修が可能で、総合力にも専門性にも優れた内科専門医の育成を目指します。救急患者もコロナの影響もありましたが、年間約 5,000 例受け入れており総合的な内科疾患初期対応の研修が行えるだけでなく、研修後半の志望科の Subspecialty の研修にも力をいれており、十分な専門的症例・検査・処置数があり充実した研修が可能です。
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 10 名 日本内科学会総合内科専門医 9 名 日本消化器病学会消化器専門医 6 名 日本消化器内視鏡学会専門医　7 名 日本循環器学会循環器専門医 5 名 日本肝臓病学会専門医　5 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名 日本血液学会血液専門医 2 名 日本アレルギー学会専門医（内科）2 名、 日本神経学会神経内科専門医　1 名ほか
外来・入院 患者数	外来患者　4,699 名　　（内科系 1 ヶ月平均 延べ患者数） 入院患者　4,453 名　　（内科系 1 ヶ月平均 延べ患者数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。稀な疾患も、大学病院などと連携しできる限り体験できる体制にしています。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院、日本老年医学会専門研修施設 日本血液学会認定血液研修施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医指導施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設

	日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設

大阪赤十字病院

認定基準 【整備基準２４】 １）専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・大阪赤十字病院専攻医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメントに関する相談体制が大阪赤十字病院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・病院に隣接した契約保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準２４】 ２）専門研修プログラムの環境	・指導医は 29 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者、プログラム管理者（診療科部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医））にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と教育研修推進室を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのために時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2025 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・他研修施設と合同カンファレンス、地域参加型のカンファレンス（日赤フォーラム、大阪赤十字病院懇話会、消化器フォーラム等）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2025 年度開催実績 1 回：受講者 6 名）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に教育研修推進室が対応します。 ・特別連携施設（日本赤十字社　多可赤十字病院）の専門研修では、電話などにより指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準２４】 ３）診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療いています。 ・70 疾患のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2023 年度 6 体、2024 年度実績 17 体, 2025 年度実績 9 体）を行っています。
認定基準 【整備基準２４】 ４）学術活動の環境	・臨床研修に必要な図書室などを整備しています。 ・医療倫理審査委員会を設置し、定期的に開催（2025 年度実績 12 回）しています。 ・治験事務局を設置し、定期的に治験審査委員会を開催（2025 年度実績 6

	回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	黄　文禧 【内科専攻医へのメッセージ】 大阪赤十字病院は、天王寺区という大阪市のほぼ中央に位置する、非常にアクセスの良い大阪市医療圏の中心的な急性期病院であり、他の大阪市医療圏・近隣医療圏にある基幹施設・連携施設・特別連携施設と内科専門研修を行い、必要に応じた柔軟性のある、救急医療、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を体感・実践できる“懐深き”内科専門医になります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　２９名 日本内科学会総合内科専門医　２３名 日本消化器病学会消化器専門医　１２名, 日本循環器学会循環器専門医　２名 日本糖尿病学会専門医　５名 日本腎臓学会専門医　３名 日本呼吸器学会呼吸器専門医　８名 日本血液学会血液専門医　８名 日本神経学会神経内科専門医　７名 日本アレルギー学会専門医（内科）1 名 日本リウマチ学会専門医　２名 日本感染症学会専門医　1 名 日本救急医学会救急科専門医　６名　ほか
外来・入院 患者数	外来患者　12,990.6 名（1 ヶ月平均） 入院患者　　805.7 名（1 ヶ月平均）※2025 年度内科系
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設 （内科系）	日本リウマチ学会教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本血液学会専門研修認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本不整脈心電学会　クライオバルーンアブレーション認定施設 日本不整脈心電学会　ホットバルーンアブレーション認定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本神経学会教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設（呼吸器内科） 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設 日本感染症学会研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設　など

医学研究所北野病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。論文、図書・雑誌や博士論文などの学術情報が検索できるデータベース・サービス（UpToDate、Cochrane Library、Clinical key、 Medical online、科学技術情報発信・流通総合システム」（J-STAGE)、CiNii（NII 学術情報ナビゲータ）他、多数）が院内のどの端末からも利用できます。 ・公益財団法人田附興風会　医学研究所北野病院の常勤医師としての労務環境が保証されています。 ・院内には職員食堂があり、宿日直時は食事補助があります。（昼食・夜食：弁当支給、朝食：院内のコーヒーショップの食券を配布） ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・休憩室、更衣室、当直室を整備しています。 ・院内保育所があり、病児保育も利用可能です。院内保育所利用者に限り自動車通勤が可能です。

認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・内科指導医は１３名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者、プログラム管理者（主任部長）（ともに指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と医師卒後教育センターを設置しています。 ・医療倫理・医療安全講習会・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に医師卒後教育センターが対応します。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2025 年度 7 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・医の倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に治験審査委員会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で 4 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	北野　俊行 【内科専攻医へのメッセージ】 　北野病院は連携施設と協同して内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指します。 　主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になることを目指します。
指導医数 （常勤医）	内科指導医１３名、日本内科学会総合内科専門医 23 名、日本消化器病学会消化器病専門医４名、日本肝臓学会肝臓専門医２名、日本消化器内視鏡学会専門医４名、日本循環器学会循環器専門医７名、日本糖尿病学会専門医４名、日本内分泌学会内分泌代謝専門医２名、日本腎臓病学会専門医４名、日本透析医学会専門医４名、日本呼吸器学会呼吸器専門医５名、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医５名、日本血液学会血液専門医５名、日本神経学会神経内科専門医５名、日本アレルギー学会専門医（内科）２名、日本リウマチ学会専門医３名、日本感染症学会専門医１名、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医３名など
外来・入院患者数 （年間）2025 年度	外来：1,641.8 名（全科 1 日平均：2025 年度実績） 入院：200,616 名（全科 2025 年度実績）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本感染症学会研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本呼吸器学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈心電学会専門医制度研修施設 日本肝臓学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本腎臓学会腎臓専門医制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 など

大阪府済生会中津病院

1）専攻医の環境 【整備基準 24】	･臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･国立病院機構期間医師として労務環境が保障されています。 ･管理課厚生係がメンタルストレスに対処し、管理課長がハラスメントの窓口となります。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
2）専門研修プログラムの環境 【整備基準 24】	･指導医は 26 名在籍しています。 ･当院の研修委員会委員長が基幹施設の研修管理委員会の委員として連携を図ります。 ･臨床研修センターを設置します。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績合計 6 回）していて、専攻医は受講することが必要です。 ･CPC を定期的に開催（2025 年度実績 5 回）しています。 ･伏見医師会と共同し地域参加型のカンファレンスを行っています。 ･日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。

3）診療経験の環境 【整備基準 24】	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 10 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 65 以上の疾患群）について研修できます。 ･専門研修に必要な剖検（2025 年度内科系 5 体）を行っています。
4）学術活動の環境 【整備基準 24】	･臨床研究センターを併置し、また臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ･倫理委員会を設置し、定期的に開催（2025 年度実績 12 回）しています。 ･治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2025 年度実績 11 回）しています。 ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	立木　美香 【内科専攻医へのメッセージ】 京都・乙訓医療圏南部の中心的な急性期病院である国立病院機構京都医療センターは、地域の医療施設と連携しつつ質の高い医療を提供しています。同時に、古くからの初期および後期臨床研修病院として、医師のみならず多くの医療職の教育研修の経験を有しています。質の高い教育と指導、学会参加や研究活動の支援、働きやすい環境づくりに努めています。そのような環境の中で、全人的かつ標準的・先進的医療の実践を志す内科専門医志望者を丁寧に育てていきたいと考えています。
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 26 名、日本内科学会総合内科専門医 42 名、内分泌代謝科専門医 8 名、日本消化器病学会消化器専門医 8 名、日本循環器学会循環器専門医 10 名、日本糖尿病学会専門医 5 名、日本腎臓病学会専門医 8 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、日本血液学会血液専門医 4 名、日本神経学会神経内科専門医 5 名、日本リウマチ学会専門医 2 名、日本感染症学会専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 7 名、ほか
外来・入院 患者数	外来：　245,354 人 入院：161,050 人
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携・離島研修（隠岐の島病院・平戸市民病院）なども経験できます。

学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院、日本内分泌学会研修施設、日本甲状腺学会認定施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本肥満学会認定専門病院、FH 診療認定施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学認定施設、日本急性血液浄化学会認定指定施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本神経学会研修施設、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡認定施設、日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本肝臓学会認定施設、日本循環器学会認定循環器研修施設、日本心血管インターベンション治療学会認定教育施設、日本不整脈学会認定不整脈専門医研修施設など

神戸市立医療センター西市民病院

1）専攻医の環境 【整備基準 24】	①研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ②地方独立行政法人神戸市民病院機構（以下、「機構」という）の任期付職員として労務環境が保障されています。 ③メンタルストレスに適切に対処するため、臨床心理士を中心とした心理カウンセラー等の専門スタッフに相談ができる窓口を設置しています。 ④ハラスメント委員会が機構内に整備されており、ハラスメントに関する相談・被害を申し出ることができる窓口を設置しています。 ⑤女性専攻医が安心して勤務できるように、院内保育所、病児保育室、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ⑥利用可能な院内保育所があります。
2）専門研修プログラムの環境 【整備基準 24】	①指導医は 21 名在籍しています（下記）。 ②内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（診療部長），プログラム管理者（診療部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医））にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ③基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します ④医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 12 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます ⑤研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます ⑥CPC を定期的に開催（2025 年度実績 10 回）し専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます ⑦地域参加型のカンファレンス（2025 年度実績 27 回）を定期的に開催し専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます ⑧プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます ⑨日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応しま

	す ⑩特別連携施設の専門研修では，電話や週 1 回の西市民病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います
3）診療経験の環境 【整備基準 24】	①カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記） ②70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます（上記） ③専門研修に必要な剖検（2023 年度 10 体、2024 年度 6 体、2025 年度 12 体 ）を行っています
4）学術活動の環境 【整備基準 24】	①臨床研究に必要な図書室，写真室などを整備しています ②倫理委員会、倫理問題検討委員会を設置し定期的に開催しています ③治験委員会を設置し定期的に受託研究審査会を開催（2025 年度実績 12 回）しています ④日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2025 年度実績 3 演題）をしています
指導責任者	西尾　智尋 【内科専攻医へのメッセージ】 兵庫県神戸医療圏西部の中心的な急性期病院である神戸市立医療センター西市民病院を基幹施設として、兵庫県神戸市医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を経て兵庫県の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練され、基本的臨床能力獲得後は必要に応じた可塑性のある内科専門医として兵庫県全域を支える内科専門医の育成を行います。主担当医として，救急対応、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります.
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 9 名、日本内科学会総合内科専門医 21 名、日本消化器病学会消化器専門医 8 名、日本肝臓学会専門医 4 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本腎臓学会腎臓専門医 4 名、日本糖尿病学会専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本感染症学会専門医 2 名、日本救急医学会救急科専門医 3 名、ほか
外来・入院 患者数	外来患者 8,247 名（内科系診療科のみ 1 ヶ月平均 延べ患者数） 入院患者 4,983 名（内科系診療科のみ 1 ヶ月平均 延べ患者数） 2025 年度実績 358 床（内科系 154 床）

経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本肝臓学会関連施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本神経学会準教育関連施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定教育関連施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本感染症学会認定研修施設など

神鋼記念病院

1）専攻医の環境 【整備基準 24】	･初期臨床研修制度の基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･神鋼記念病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（人事所管室職員担当）があります。 ･ハラスメント相談員が人事所管室に配置されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･近隣に契約保育所があり、利用可能です。
2）専門研修プログラムの環境 【整備基準 24】	･日本内科学会指導医は 23 名在籍しています。 ･内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（年 3 回程）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンス（神鋼記念病院地域連携講演会、東神戸総合内科講演会、東神戸臨床フォーラム、東神戸呼吸器疾患講演会、神鋼循環器セミナー、神鋼糖尿病セミナー、神戸膠原病腎臓カンファレンス、など）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのた

	めの時間的余裕を与えます。
3）診療経験の環境 【整備基準 24】	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、呼吸器、循環器、血液、膠原病、神経、代謝、救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
4）学術活動の環境 【整備基準 24】	･総合医学研究センターを設立し、医学・医療の発展のために臨床医学研究を推進し、高度先進医療の支援や共同研究を行なっています。 ･倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ･治験委員会を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（年間 7～8 演題）をしています。
指導責任者	岩橋　正典 【内科専攻医へのメッセージ】 神鋼記念病院は、神戸の中心地に位置する急性期総合病院であるとともに、地域に根ざした第一線の病院でもあります。このことから臓器別の Subspecialty 領域（総合内科、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、血液内科、リウマチ膠原病内科、脳神経内科、糖尿病代謝内科、腫瘍内科、救急）に支えられた高度な急性期医療とコモンディジーズが同時に経験できます。
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 23 名、日本内科学会総合内科専門医 17 名 日本消化器病学会消化器専門医 6 名、日本循環器学会循環器専門医 5 名、 日本糖尿病学会専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名、 日本血液学会血液専門医 3 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名、 日本アレルギー学会専門医 2 名、日本リウマチ学会専門医 5 名、 日本肝臓学会専門医 2 名、感染症専門医 1 名ほか
外来・入院 患者数	延べ外来患者 18,977 名（1 ヶ月平均）　延べ入院患者 9,169 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設（内科系）	日本循環器学会循環器専門医研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医認定施設、日本消化器病学会専門医認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本糖尿病学会認定教育施設Ⅱ、日本リウマチ学会教育施設、日本血液学会血液研修施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、アレルギー専門医教育研修施設、日本神経学会准教育施設、など

神戸市立神戸医療センター

1）専攻医の環境 【整備基準 24】	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・地方独立行政法人神戸市民病院機構（以下、「機構」という）の任期付正規職員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処するため外部相談窓口を設けています。 ・ハラスメント防止対策委員会が機構内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。　※要事前相談
2）専門研修プログラムの環境 【整備基準 24】	・内科指導医は 19 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（年間 5 回～10 回程度）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（神戸西地域合同カンファレンス 3 回程度、各種カンファレンス他）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
3）診療経験の環境 【整備基準 24】	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています
4）学術活動の環境 【整備基準 24】	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表を予定しています。 倫理委員会を設置し定期的に開催しています。 治験委員会を設置し定期的に受託研究審査会を開催しています。

指導責任者	井谷智尚 【内科専攻医へのメッセージ】 神戸市立西神戸医療センターは神戸市西区を中心とした西地域の中心的な急性期病院であり、地域に密着した救急医療と、がん診療連携拠点病院としての高度医療を 2 本柱としています。コモンディジーズから重症疾患まで、幅広い症例を経験できます。結核病棟（45 床）を有しており、結核症例も豊富です。 また、当院は平成 6 年の開院当初より地域医療室を開設しており、一貫して地域連携を推進しています。さまざまな病診、病病連携について経験可能です。
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 19 名 日本内科学会総合内科専門医 21 名 日本消化器病学会消化器病専門医 6 名 日本消化器内視鏡学会専門医 6 名 日本肝臓学会専門医 2 名 日本循環器学会循環器専門医 7 名 日本糖尿病学会専門医 2 名 日本腎臓病学会専門医 3 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 7 名 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 5 名 日本血液学会血液専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 2 名 日本アレルギー学会専門医 3 名ほか
外来・入院 患者数	外来患者 10,884 名（内科系診療科のみ 1 ヶ月平均 延べ患者数） 入院患者 5,419 名（内科系診療科のみ 1 ヶ月平均 延べ患者数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本内分泌学会認定教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会専門医教育関連施設、日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本血液学会血液研修施設、日本神経学会准教育施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設など

姫路医療センター

1）専攻医の環境 【整備基準 24】	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·姫路医療センター期間職員として待遇され賞与、超過勤務手当、当直手当の支給あり、労務環境が保障されています。 ·専攻医用宿舎があります。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署（管理課）があります。 ·ハラスメントに関して安全衛生委員会が担当しています。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ·敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
2）専門研修プログラムの環境 【整備基準 24】	·指導医は 13 名在籍しています（2025 年 4 月現在）。 ·内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者：河村哲治）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。 ·指導医も専攻医も研修状態を電子カルテ端末上でリアルタイムに管理できるよう IT 技術を駆使した本院独自の研修支援システムを構築します。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催（2025 年度実績 1 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンス（月曜会、若手医師のための呼吸器勉強会等）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（姫路市内の病院で共同開催の予定）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·日本専門医機構による施設実地調査にプログラム管理委員会と事務部が対応します。
3）診療経験の環境 【整備基準 24】	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 10 分野において全疾患群について定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。3 分野（内分泌、腎臓、神経）については一部の疾患群で症例数が不足していますが連携施設での研修で十分な研修が可能です。 ·専門研修に必要な剖検（年間平約 4 体）を行っています。
4）学術活動の環境 【整備基準 24】	·倫理委員会を設置し、定期的に開催（毎月 1 回開催）しています。 ·臨床研究推進室（治験管理、自主研究管理）を設置し、受託研究審査会も毎月 1 回開催しています。

指導責任者	河村哲治 【内科専攻医へのメッセージ】 ·姫路医療センターには、ややもするとありがちな出身大学間や人間関係の軋轢がなく、アットホームな雰囲気で研修に集中でき、従来の後期研修医からも人気を集めており、後期研修終了後は常勤医師に昇進する例が大多数を占めています。 ·本院独自に開発している研修支援システムは、細かな規則も含めたカリキュラム規定をすべて盛り込んで全専攻医が能率的に確実にカリキュラムを消化できるようにテクニカルな側面から強力に支援を行うものであり、リアルタイムに研修進行過程を視覚的に確認することが可能であり、安心して研修に集中することを支援します。 ·研修支援システムの補助により、内科全科同時研修進行を可能としており、希少症例もタイムリーに経験することを可能とし、無理のない学会報告をも可能としています。 ·サブスペシャルティの並行研修を行うことを強く意識していますが、それを希望する場合は研修支援システムの補助のもと研修進行状況を厳重に管理し実現に向けて最大限の支援を行います。 ·とくに呼吸器、消化器については先進的なサブスペシャルティ研修が可能です。
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 13 名、日本内科学会総合内科専門医 19 名、日本消化器病学会消化器専門医 10 名、日本消化器内視鏡学会専門医 11 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、日本糖尿病学会指導医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 17 名、日本呼吸器学会呼吸器指導医 6 名、日本呼吸器内視鏡学会専門医 9 名、日本呼吸器内視鏡学会指導医 3 名、日本血液学会血液専門医 1 名、日本血液学会血液指導医 1 名、日本リウマチ学会専門医 4 名、日本リウマチ学会指導医 2 名、日本感染症学会専門医 2 名、日本感染症学会指導医 1 名　　ほか
外来・入院 患者数	内科系の外来患者 4,647 名（1 ヶ月平均） 内科系の入院患者 5,804 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例について、腎疾患、神経疾患については一部の疾患群で症例数が不足しているが、その他は幅広く経験することができます。不足領域は連携病院での研修で十分研修できます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本消化器病学会認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本リウマチ学会教育施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設　など

倉敷中央病院

認定基準【整備基準 24】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·倉敷中央病院専攻医として労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（人事部）があります. ·ハラスメント委員会が当院内に整備されています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ·敷地内に院内保育所があり，病児保育，病後児保育を含め利用可能です.
認定基準【整備基準 24】 2) 専門研修プログラム の環境	・指導医が 73 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会を設置して、基幹施設、連携施設に設置される研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ・医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的に開催（年間開催回数：2025 年度 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（年間実績 8 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。 ・指導医が在籍していない特別連携施設での専門研修では、基幹施設でのカンファレンスなどにより研修指導を行います。
認定基準【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野の,総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています．又,内科系学会への学会発表にも積極的に取り組んでおります.(2024 年度実績 181 演題)
指導責任者	石田　直
	【内科専攻医へのメッセージ】
	倉敷中央病院は,岡山県県南西部の医療の中枢として機能しており,地域の救急医療を支えながら,又高機能な医療も同時に任っている急性期基幹病院です.内科の分野でも入院患者の 25%は救命救急センターからの入院であり,又内科

	領域 13 分野には多くの専門医が high volume center として高度の医療を行っています. 内科専門医制度の発足にあたり,連携病院並びに特別連携病院両者との連携による,地域密着型医療研修を通して人材の育成を行いつつ,地域医療の充実に向けての様々な活動を行います. 初診を含む外来診療を通して病院での総合内科診療の実践を行います.又内科系救急医療の修練を行うと同時に,総合内科的視点をもったサブスペシャリストの育成が大切と考えカリキュラムの編成を行います.加えて,医療安全を重視し,患者本位の医療サービスを提供しながら,医学の進歩に貢献できる医師を育成することを目的とします.
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 73 名、日本内科学会総合内科専門医 54 名、 日本消化器病学会消化器専門医 18 名、日本循環器学会循環器専門医 23 名、 日本内分泌学会専門医 4 名、日本糖尿病学会専門医 10 名、 日本腎臓病学会専門医 7 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 8 名、 日本血液学会血液専門医 10 名、日本神経学会神経内科専門医 8 名、 日本アレルギー学会専門医（内科）2 名、日本リウマチ学会専門医 4 名、 日本感染症学会専門医 3 名、日本救急医学会専門医 2 名、 日本肝臓学会専門医 7 名、 日本老年医学会専門医 3 名、 臨床腫瘍学会 4 名、消化器内視鏡学会専門医 20 名ほか
外来・入院 患者数	外来患者延べ数 271,235 人/年（2024 年度実績） 入院患者数 12,838 人/年（2024 年度実績）
病床	一般：1157 床
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本肝臓学会肝臓専門医制度認定施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管カテーテル治療学会教育認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本呼吸器学会専門医制度認定施設

	日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設 日本感染症学会認定研修施設 日本アレルギー学会準教育施設 日本糖尿病学会専門医認定制度教育施設 日本老年医学会認定施設 日本腎臓病学会腎臓専門医制度研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本臨床腫瘍学会専門医制度認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 など

高松赤十字病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・日本赤十字社規定に基づく高松赤十字病院職員就業規則に準じ労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する担当（公認心理師）がいます. ・ハラスメント相談員が設置されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・ワーク・ライフ・バランスサポートセンターが設置されています. ・体調不良児保育も可能な院内保育所の利用が可能です.

認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 27 名在籍しています. ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長），プログラム管理者（診療部長））にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と教育研修推進室を設置します. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績：医療安全 3 回，感染対策 2 回，医療倫理 1 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催（2024 年度実績：全体 5 回（内科 3 回））し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンス（地域連携談話会，香川県内科医会血液部会症例検討会，香川血液疾患チーム医療研究会，香川県消化器談話会，香川肺がん診断会，香川県内科医会糖尿病談話会，香川県内科医会呼吸器疾患談話会，香川県内科医会循環器部会，香川高血圧研究会他）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（第 8 回：2024 年 12 月 22 日開催）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・日本専門医機構による施設実地調査に教育研修推進室が対応します. ・特別連携施設の専門研修では，電話や週 1 回の高松赤十字病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 11 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます. ・専門研修に必要な剖検（2024 年度実績：全体 14 体（内科 9 体），2023 年度実績：全体 12 体（内科 7 体），2022 年度実績：全体 18 体（内科 14 体），2021 年度実績：全体 12 体（内科 9 体），2020 年度実績：全体 14 体（内科 10 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室とインターネット環境が整備されています. ・倫理委員会を設置し，定期的に開催（2024 年度実績 2 回）しています. ・治験管理室を設置し，定期的に臨床治験審査委員会を開催（2024 年度実績 9 回）しています. ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2024 年度実績 7 演題）をしています.
指導責任者	柴峠　光成 【内科専攻医へのメッセージ】 高松赤十字病院は，香川県の中心的な急性期・高度急性期病院であり，県内外にある連携施設・特別連携施設とともに内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します. 主担当医として，入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　27 名，日本内科学会総合内科専門医　21 名 日本消化器病学会専門医　7 名，日本肝臓学会専門医　2 名 日本循環器学会専門医　11 名，日本内分泌学会専門医　1 名 日本腎臓学会専門医　　2 名，日本糖尿病学会専門医　2 名 日本呼吸器学会専門医　4 名，日本血液学会専門医　4 名 日本神経学会専門医　1 名，日本リウマチ学会専門医　2 名 ほか
外来・入院患者数 （年間）2024 年度	外来患者数（延数）269,590 人/年（内科 81,279 人/年） 入院患者数（実数）12,493 人/年（内科 5,265 人/年）

経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本血液学会認定血液研修施設 日本輸血・細胞治療学会認定指定施設 日本輸血・細胞治療学会 I&A 制度認証施設 非血縁者間骨髄採取認定施設 非血縁者間末梢血幹細胞採取認定施設 非血縁者間造血幹細胞移植認定診療科【カテゴリー：1】 日本腎臓学会認定教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本肝臓学会専門医制度関連施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本膵臓学会認定指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設、専門施設 浅大腿動脈ステントグラフト実施施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 経カテーテル心筋冷凍焼灼術実施施設 IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設 植込型補助人工心臓管理施設 経皮的僧帽弁接合不全修復システム実施施設 日本神経学会専門医制度准教育施設 日本呼吸器学会専門医制度認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設（連携施設） 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本東洋医学会研修施設　など

国立病院機構京都医療センター内科専門研修プログラム管理委員会

（2026 年 4 月現在）

京都医療センター

統括責任者	立木　美香
副統括責任者	小山　弘

連携施設研修委員会委員長

淀さんせん会金井病院	金井　伸行
桃仁会病院	橋本　哲也
国立病院機構宇多野病院	髙坂　雅之
枚方公済病院	北口　勝司
丹後中央病院	革嶋　恒明
三菱京都病院	水野　雅博
京都桂病院	西村　尚志
京都市立病院	江村　正仁
大津赤十字病院	谷口　孝夫
国立循環器病研究センター病院	安斉　俊久
天理よろづ相談所病院	八田　和大
日本赤十字社和歌山医療センター	上野山　義人
神戸市立医療センター中央市民病院	古川　裕
京都大学医学部附属病院	近藤　尚哉
静岡市立静岡病院	前田　明則
静岡県立総合病院	袴田　康弘
彦根市立病院	黒江　彰
市立長浜病院	高島　弘行
滋賀県立総合病院	中村　敬哉
平戸市民病院	
京丹後市弥栄病院	
京都府立医科大学附属北部医療センター	堅田　和弘
公立豊岡病院組合豊岡病院	木村　利幸
高島市民病院	
洛陽病院(特別連携施設)	
若狭高浜病院(特別連携施設)	
隠岐広域連合隠岐病院（特別連携施設）	
高槻赤十字病院	北　英夫
大阪赤十字病院	片山　昌紀
医学研究所北野病院	北野　俊行
大阪府済生会中津病院	森澤　利之
神戸市立医療センター西市民病院	西尾　智尋

神鋼記念病院	松本　善秀
神戸市立西神戸医療センター	井谷　智尚
姫路医療センター	和泉　才伸
倉敷中央病院	石田　直
高松赤十字病院	山本　晃義

オブザーバー

　内科専攻医代表